学び

巻頭

明日に向かって未来を拓く

杉林堅次学長インタビュー

読売ジャイアンツ

宇佐見真吾さん（2016年卒）「月間アットホームヒーロー賞」受賞

JIUの動き――あれも、これもあった／キャンパス点描／林家正蔵特任教授／東金市長インタビュー　…他

2017
11
創刊号

城西国際大学広報誌

城西国際大学

新理事長に上原明氏

学校法人城西大学は９月８日の理事会において、新理事長に上原明氏（学校法人城西大学理事・評議員、大正製薬ホールディングス株式会社 代表取締役社長）を選任いたしました。

略歴

氏　　名	上原　明（うえはら あきら）	
生年月日	1941年4月5日	
出身地	東京都	
最終学歴	1966年　3月	慶應義塾大学経済学部卒
職　　歴	1966年　4月	日本電気株式会社入社
	1977年　4月	大正製薬株式会社入社
	1982年　6月	代表取締役社長
	2011年10月	大正製薬ホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長
	2013年　6月	大正製薬ホールディングス株式会社 代表取締役社長（現任）
留学歴	1964年　5月	ミズーリヴァレーカレッジ　卒
	1964～65年	ダートマス大学タックビジネススクール
団体役員及び委員	日本大衆薬工業協会　会長（1997年5月～2001年4月）	
	世界大衆薬協会　会長（1999年6月～2002年11月）	
	アジア太平洋セルフメディケーション協会 会長（2016年10月～）	
	上原記念生命科学財団　理事長（2013年5月30日～）	
	城西大学	評議員・理事（1979年1月8日～）
		理事長（2017年9月11日～）
	成蹊学園	評議員（1988年3月27日～）
		評議員会議長（2002年3月24日～2012年3月23日）
		理事　（1998年3月～）
	慶應義塾大学	評議員（1990年11月～）
		理事　（2006年11月～）

以上

ごあいさつ

このたび学校法人城西大学理事長の職をお受けすることとなり、あらためてその職責の重さを感じています。

今回の会計調査委員会の設置・報告により、学生、同窓生のみなさま、ご父母のみなさま、教職員をはじめ、関係の皆様方に大変ご心配をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。この事態を真摯に受け止め、今後はコンプライアンスの徹底に務め、再発防止に取り組んでまいります。

1965 年に水田三喜男先生によって創立された学校法人城西大学は、埼玉県坂戸市、千葉県東金市・鴨川市、東京紀尾井町と首都圏横断的にキャンパスを展開する総合大学へと発展してきました。私が、義祖父上原正吉、父堀田庄三より聞いておりました三喜男先生は、「日本の将来を背負ってたつような気骨を持った人材を育てる教育こそ最も重要である」というお考えを持ち、人の意見によく耳を傾け、謙虚且つ人を温かく包むお人柄であられたとのことでした。私も創立者の建学の精神を大切に守り、大学の発展に全力を尽くす所存です。

学生時代に学び、体験することは非常に貴重で、今後の人生に大きな影響を与えます。私は、若きころ、大学を休学して米国に留学する機会を得、そこで、多様な民族、言語、宗教、文化等に接することを通して、物事に対する柔軟な見かた、考えることの重要性を実感しました。その後入社した日本電気では、通信衛星打ち上げの国際プロジェクト、コンピュータの米国からの技術導入に従事する機会が与えられたのですが、学生時代の経験が実際の仕事に大いに活かせたと思います。学生諸君には、本学で過ごす中で、視野を広げる意義深い経験をしてほしいと願っています。

城西大学、城西短期大学、城西国際大学の三大学が一致し、地域に貢献でき、国際的に活躍できる人材の育成に取り組んでまいりたいと存じますので、皆様方のご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

巻頭インタビュー

杉林堅次（すぎばやしけんじ）学長

未来を拓く

25周年を機にさらに大きな飛躍を

――城西国際大は、創立25周年を迎えました。この25年間の大学の歩みを振り返り、どのような評価をしていますか。現在では千葉県で2番目の学生数を擁する総合大学です。

「城西国際大学は、千葉県の東金、鴨川と東京の紀尾井町にキャンパスを有し、社会科学系、人文科学系、福祉・医療系の8学部10学科と大学院、留学生別科などを擁する国際的総合大学に発展しました。ＪＩＵは、そもそも『新しい大学』を目指しましたので、古くからの大学にはない新規の学部・学科や研究科・専攻を設置しました。いわば新しい大学のストラクチャ（構造）を提示したわけです。しかし、新しいがゆえに高校生や地域の方々には、具体的なイメージをとりにくいところもあったと思います。そこで、25周年を機にさらに大きな飛躍を目指し、新しい部分をわかりやすく説明し、大学として『具体的に動く』こと、そして教育に反映させること、が大事だと思っています。そのために学長としてリーダーシップをとり、ガバナンスを確立していきたい、また、さまざまな意見を吸い上げ、醸成し、生かしていきたいと思います」

――地域との連携についてはどうでしょうか。キャンパスの開設に関してはそれぞれ地元、周辺自治体、地域の住民の方のさまざまな協力がありました。そして大学も色々な地域貢献をしてきました。

「メインキャンパスのある東金や観光学部のある鴨川は、いずれも千葉県の都市部ではなく、過疎化が始まっている地域（地方圏）です。大学と近隣地域は運命共同体、とも言えるでしょう。したがって、大学と協働して、共に新しいものを創造していく『共創』が必要です。２０２０年の東京五輪・パラリンピックを控えて、観光・健康といった点を視野に入れ、地域振興に協力していきたい。キャンパスのある千葉県の東側・南側のゾーンは、一層の振興が求められています。成田空港という日本の玄関から、人々が千葉県東部にもやって来るような魅力ある地域づくりに協力していきたい。国際的な総合大学であるＪＩＵの存在は大きいと考えます」

――現在、海外提携校は約１７０校を誇り、キャンパスにいながら異文化体験ができるなどの特色があります。大学とグローバル化についてその理念、方針などをお聞かせください。

「国によって言語や文化も違います。価値観も違うでしょう。それを尊重しながら交流する。留学生が多く学ぶＪＩＵのキャンパスは、その多文化共生の舞台です。今春、国際人文学部を卒業し、この秋に、南米のパラグアイに青年海外協力隊隊員として派遣された山口萌さん（21ページに紹介）ですが、交換留学生として外国の大学に学んだり、ベトナムでの海外研修に参加し、さまざまな出会いなどを通して、国際協力の道を選んだ、と聞いております。学生のみなさんには、欧米諸国だけではなく、開発途上の国々にも目を向け、多文化共生を経験してほしいです」

「ＪＩＵで学んでこそ人材が育つ」を示したい

――ＪＩＵは、東金キャンパスをはじめ、勉学にスポーツに打ち込める素晴らしい環境を学生に提供しています。これらのキャンパスを舞台に今後は、どのような方針でどのような人材を育成していきますか。

『ＪＩＵで学んでこそ……』という環境つくりをさらに進めていきたい。新しいビジョンとして『地域・国際的ニーズに対応した先進的教育を行う大学に』を掲げました。日本、アジア、世界で活躍できる人材の育成です。いまもＪＩＵの学生らがノルウェー、マレーシア、台湾などで日本語を教えています。『ＪＩＵで学んでこそ人材が育つ』ということを示したいと思います。

ＩＴ（情報技術）が進化し、ＡＩ（人工知能）も多用される時代になりました。今まで以上に、生きるうえでの倫理観が大事な時代になってきました。学生のみなさんには、大学で学び、研究する中で、倫理観を身に付けてほしいと思います」

――姉妹大学の城西大学を含め、キャンパスを結ぶ中心点として東京・紀尾井町キャンパスの機能強化についてはどうですか。

「東京の真ん中にあり、皇居にもっとも近い大学の一つです。この利点を十分に生かしていきたい。例えば、すぐ近くに国会図書館があります。ここを利用し、勉強・研究に励むことができます。日本人学生だけでなく、留学生にとっても紀尾井町キャンパスは、学びやすい環境にあると思います。

10月1日に、紀尾井町キャンパスで初の大学祭が行われました。城西国際大・城西大・城西短期大学の3大学によるものです。学生が『創っていく』――意義のあることです。大学の新しい歴史の始まり、と言えるでしょう」

プロフィール

富山大学大学院薬学研究科薬学専攻（修士課程）修了。薬学博士（岐阜薬科大学）取得。米ミシガン大学、ユタ大学留学。講師、助教授などを経て城西大学薬学部教授。また、薬学部長、城西大学・城西国際大学副学長を歴任した後２０１７年４月城西国際大学学長。日本薬剤学会賞、Shukri Distinguished Keynote Lecture Award、日本動物実験代替法学会功労賞など授賞。マレーシア・マネジメント科学大学の名誉博士。

題字について

表紙の「学ぶ」は、辻元大雲（つじもとたいうん）さんによるものです。辻元さんは、毎日書道会理事、書道芸術院理事長を務められており、今年度の「第69回毎日書道展」で最高賞「文部科学大臣賞」を受賞されています。千葉県袖ケ浦市在住。

目次

2 「巻頭インタビュー」杉林堅次 学長
3 新理事長に上原明氏
4 ＪＩＵの「動き」――あれも、これもあった／生涯教育
9 研究室探訪――教養の大地を耕せ
10 空を翔る――ＪＩＵスポーツ
12 広がる感動の地平線――サークル紹介
13 水田美術館
14 キャンパス点描
19 創立者・水田三喜男の足跡を辿る
20 先輩訪問
22 ＪＩＵアスリート
23 「わたしも教えています」林家正蔵 特任教授
24 「インタビュー」志賀直温 東金市長
25 地域とともに
26 「でかした先輩」宇佐見真吾（読売ジャイアンツ）
27 同窓会から／奨学金制度一覧
28 大学グッズ／父母後援会から
29 ＪＩＵでは
30 著者に会いに行く
31 告知板／編集後記

JIUの「動き」

―あれも、これもあった

農業大学と提携

東金市にある千葉県立農業大学校とは、環境社会学部の開設を機に講師派遣・施設共同利用など教育連携を実施してきたが、教育連携協定を正式に締結、3月6日に調印式を行った。

調印式に出席した石橋清孝県議会議員と志賀直温東金市長からは「地域資源を生かした新たなブランド開発や地域人材育成に向けた協働、そして地域貢献活動に大いに期待を寄せられている」とエールをいただいた。

協定締結を機に、千葉県立農業大学校学生の微生物実験実習を薬学部で実施するほか、ブルーベリーの成分分析を活用し商品化に向けた検討、農業担い手育成就農支援などについて、協働していくことを約束した。

就職面談会

恒例の「就職面談会」が3月13日、千葉市幕張のホテルで開催された＝**写真**。今年は、6月1日から選考が開始され、10月1日から正式内定が出される――というスケジュール。「氷河期」と呼ばれた就職難の時期と比べ、雇用環境は改善傾向が続いているが、依然として就職戦線は厳しい。

会場には、一般企業、薬学、福祉関連施設240社の人事担当者の方が集まり、福祉総合・環境社会・経営情報・メディア・国際人文・観光の6学部の3年生（薬学部は5年生）の約700人の学生が就職面談に臨んだ。毎年、この就職面談会で20～30人の学生が「内々定」をもらうという。各ブースでは、担当者に熱心に質問をしたり、メモをとる学生の姿が目立った。

青少年交流事業

7月8日、東金市の青少年交流事業「新たな『絆』の交流会」の一環として、友好交流都市の長野県安曇野市の児童20名と東金市の児童35名が来学し、留学生と英語での交流会を行った＝**写真**。

城西国際大学は世界30か国から留学生を受け入れており、今回はポーランドとハンガリーの留学生が交流会に参加した。この交流会は昨年11月より行われており、地域と世界を繋げる活動のひとつとなっている。

東金キャンパスでは留学生と小学生たちが自己紹介をした後、輪になって英語の遊び歌を唄いながらゲームを行った。その後、東金青年の家に移動しカレーライス作りに挑戦。自ら火を起こし、飯ごうで米を炊き、カレーも手作りだった。この交流会に参加したポーランドからの留学生のアリシャさんは「覚えた日本語の実践の場になった」と話し、「子どもたちがとても可愛かった」と笑顔を見せていた。

秋季入学式

391人が希望を胸に新たなスタート

東金キャンパスで9月15日、秋季入学式があり、欧州を中心とした20カ国・地域の留学生ら計391人が希望を胸に新たなスタートを切った。

杉林堅次学長が「学問による人間形成という理念を胸に勉学に励んでください。キャンパス内だけでなく地域交流を重ねることで留学の真の成果が得られるでしょう」と激励。学生を代表し、国際人文学部のナジ・ドーラさん（26）＝ハンガリー出身＝が「それぞれの夢をかなえるための機会を与えてくれた大学に感謝の気持ちを忘れず、勉学に励みます」と宣誓した。

ASP

8月1日～21日の日程で、アジア・サマー・プログラム（ASP）が中国・広東外語外貿大学で開かれた。6回目の開催となるASPは、6カ国（日本、韓国、マレーシア、タイ、インドネシア、中国）が参加するプログラムで、毎年開催国を変えて実施している。今回、6カ国を合わせて約110名の学生がプログラムに参加した。現地では、企業見学、観光ツアー、スポーツアックティビティ大会などが行われ、交流を深めた。

杉林学長がマレーシアから名誉博士号

8月6日、マレーシアのMSU（Management & Science University）は、杉林堅次学長の国際的な薬学での研究者としての学術活動、城西大学・城西国際大学との共同教育への貢献に対して、名誉博士号を授与した。MSUの卒業式において、授与式が行われた。

杉林学長は「この名誉博士は私個人より私の周りの人たちの努力によるものと思っている。グローバル化が進んでいるMSUは城西大学・城西国際大学・城西短期大学にとって大変重要なパートナーで、これまで以上の交流が可能だと思う。病院やホテルを有する大学ですので、看護・薬学領域はもちろん、マネジメントや観光領域でも交流できる」と謝辞を述べた＝**写真**。

「私の周りの人たちの努力によるもの」

また、杉林学長は「The AFPS Nagai Distinguished Scientist Award」も受賞。この賞はAFPS（Asian Federation for Pharmaceutical Sciences）創設者である永井恒司氏の功績を称え、アジアで特に優れた薬学研究者に贈られるものである。杉林学長は11月に中国・廈門（アモイ）市で開催されるAFP大会において、受賞講演が予定されている。

スロヴェニアから柴特任教授に国家功労賞

9月11日、柴宜弘特任教授・城西中欧研究所副所長が、スロヴェニア共和国から長年にわたるユーゴスラヴィア史（スロヴェニア史）研究の成果が認められ、国家功労章を受賞した。

城西国際大学では、中欧の研究や交流に注力している。中欧（V4）諸国への留学プログラムを設けており、ハンガリー語、ポーランド語、チェコ語の授業も開講している。また、中欧出身の留学生も在籍しており、交流を通して理解を深めることができる環境が整っている。

各学部では

看護学部

UCR研修

「It is a nursing that has been associated with a diverse culture.」（看護とは多文化とつきあう仕事であると学んだ。）――看護学部1年生の感想である。

5月13日、1年生全員（109名）が9日間のアメリカ研修に出発した。この研修は今年で6回目で、開学からの提携校である米国カリフォルニア大学リバーサイド校（UCR）で行っている。滞在中はUCR周辺の55家庭にホームステイした。

研修は、入学してすぐの時期に医療の現場を体験することによって、医療・看護への興味や関心を高めて専門教育への動機づけとするためのプログラムだ。また、看護にとって重要な文化理解能力のスキルを向上させることも目指している。

プログラムでは、ロサンゼルス近郊の2つの病院の見学、Riverside Community Collage 看護学部の看護学生との交流、UCR Medical School の見学を行い、米国の医療・看護について学んだ。

戴帽式

9月9日、看護学部の戴帽式＝**写真**＝があった。医療機関での看護実習を控えた1年生の男女109人が対象。近隣自治体・医療関係者らが見守る中、看護学部教員から男子は左腕にワッペンを授章され、女子は真っ白なナースキャップを戴帽した。学生たちは「奉仕の気持ちを忘れず、永遠に看護の道を進む」と誓いの言葉を全員で唱和し、決意を新たにした。今年は看護学部開設から6年目。学生たちは12月から近隣の医療機関で看護実習に入る。

薬学部

ちば薬・薬・学合同学術大会

3月4日、千葉市文化センターで「ちば薬・薬・学合同学術大会2017」が開かれた。

これからの医療は高齢化への対応や医療費の適正化など、変革期を向かえていくことになる。山積する多くの問題を解決するために病院、薬局や大学の薬剤師・教員が協力することは重要になっている。千葉県ではこれまで、千葉県薬剤師会主催の「ちば薬剤師フォーラム」、千葉県病院薬剤師会の「会員研究発表会」がそれぞれ開催されていたが、2015年度より両会が合同で「ちば薬・薬・学合同学術大会」を開催し、病院薬剤師、薬局薬剤師、さらには大学関係者との連携推進に取り組んでいる。

城西国際大学では2015年度より地域薬剤師会と連携し、検体測定室の地域への普及を図ってきた。検体測定室は薬局でも実施できる簡便な血液検査を行う場所で、地域住民の生活習慣病の早期発見を目指した取組みだ。

第20回薬学国際教育セミナー

7月24日、提携校であるタイのチュラロンコン大学薬学部からプリー・アナンタチョティ准教授（国際共同教育部門長）を招き、第20回薬学国際教育セミナーを開催した。この日は5年生が11週間にわたる病院・薬局実務実習を終え、大学に戻ってきた日でもあった。

今回のテーマは、「世界との出会いが新しい薬学へと導く――超高齢社会を迎えた先進国の医療保険制度における独自性と工夫――」として、日本の医療現場でトレーニングを終えたばかりの学生に向けて、プリー先生の専門の医療保険制度の基本的な考え方、そして、先進主要国の医療保険制度に見られる独自性や超高齢社会への対応について講演した。

プリー先生は、各先進国が少子高齢化で医療の財政負担が急増する中、高額医療費を必要とする患者の増加をどう防ぐか。国民の医療サービスへのアクセスの仕方や日本で置き換えると都道府県レベルで医療保険制度の運営を任せ、地域間相違を認めている国なども紹介した。また最後に、国民一人ひとりが医療保険制度を理解して、よりよい制度にしていくことも大切であると話された。

薬学国際教育セミナーは、2009年11月から定期的に開催され、国際的に活躍されている国内外の薬剤師、大学教員、そして、研究者を招いて学術的な講演会を行っている。

福祉総合学部

ベトナム人と交流会

7月6日に、福祉総合学科介護福祉士コースの1年生とベトナム人介護福祉士候補者（EPA研修生）との交流会を幕張国際研修センターで開催した＝**写真**。EPA研修生は母国ベトナムでの日本語研修の後、介護福祉士の資格取得を目指すために来日している。

介護福祉コースの学生は、基礎ゼミの授業の中で制作した「紙相撲」を準備して参加した。国は異なるが、同じ介護福祉士の資格取得を目指すという共通の目標がある中で有意義な時間を過ごした。

EPAベトナム介護福祉士候補者は、日本・ベトナム経済連携協定の規定に基づいて、外国人の就労が認められていない分野において、日本・ベトナムの二国間の協定に基づき公的な枠組みで特例的に受け入れている。

交流前は「どのようにコミュニケーションしたらいいのだろう」と学生は不安な様子だったが、今回の交流会を通して、学生は「ベトナムの方々が熱心に日本語と介護福祉士になるための勉強をしている姿を見て、自分たちも頑張らなきゃいけない」と感想を話していた。

この交流会は来年も開催される。介護福祉士を目指す高校生も参加してほしい。

環境社会学部

体験型オープンキャンパス

8月23日、環境社会学部の体験型オープンキャンパスを開催した。多田充教綬が学部を紹介したあと、深沢茂樹教授が「現代の環境・社会を考える」をテーマに体験授業を行った。「わたしたち人間は、地球の長い歴史の中のごく短い時間の間に、地球の資源を使いながら豊かで便利な生活を手に入れたが、その一方で環境を大きく変えてしまった。これが現在の環境問題につながっている」と説明し、環境に関するクイズを通して、参加者に環境・社会へ意識を持つことの重要性を考えていただいた。

続いて、中村智香助教が「香りと環境」について授業。生物にとって生存や種の保存に大きな役割を果たしている香り。その作用について生物的観点から説明したあと、実際に植物から抽出された精油（エッセンシャルオイル）を用いてハンドクリームを作り、香りの自身への作用を体験してもらった。

本学は、国際大学であり、多くの海外の大学と提携している。それを踏まえ、川口健夫教授が「世界で環境を学ぶ」について授業を行った。「環境社会学部海外研修」はイギリス

城西国際大学

城西国際大学は、社会科学系、人文科学系、自然科学系、福祉・医療系の8学部10学科と大学院、留学生別科などを擁する国際的総合大学。アジア地域をはじめ米国・欧州の30カ国、約170の大学と提携している。千葉県の東金市・鴨川市、東京紀尾井町にキャンパスがある。

学部

看護学部――看護学科
薬学部――医療薬学科
福祉総合学部――福祉総合学科・理学療法学科
環境社会学部――環境社会学科
経営情報学部――総合経営学科
メディア学部――メディア情報学科
国際人文学部――国際文化学科・国際交流学科
観光学部――ウェルネスツーリズム学科

大学院

人文科学研究科――国際文化専攻（修士課程）▼女性学専攻（修士課程）▼グローバルコミュニケーション専攻（修士課程）▼比較文化専攻（博士後期課程）
経営情報学研究科――起業マネジメント専攻（修士課程）▼起業マネジメント専攻（中小企業診断士登録養成課程・修士課程）▼起業マネジメント専攻（博士後期課程）
福祉総合学研究科――福祉社会専攻（修士課程）
ビジネスデザイン研究科――ビジネスデザイン専攻（修士課程）
薬学研究科――医療薬学専攻（博士課程・4年制）
国際アドミニストレーション研究科――国際アドミニストレーション専攻（修士課程）

留学生別科

日本文化・ビジネス専修課程
日本語専修課程

生涯教育（シニア・ウェルネス大学）

2006年から地域の方の生涯教育を推進するためシニア・ウェルネス大学が開校された。運動や健康を志向した教育研究活動の蓄積、健康と福祉をはじめとする幅広い人的・知的資源に基づき、これからの地域社会が解決すべき課題に貢献することが大学の役割の一つであると考えられたからである。

シニア・ウェルネス大学での1年次は、「健康・体力づくり基礎コース」で実技および講義が行われる。生活習慣病予防の家庭でできる運動やリズム体操などの実技、食生活のチェックや老化予防の知識などの講義が展開されている。2年次は、「健康・体力づくり実践コース」で、ヨガ、エアロビックダンスなどの実技やウェルネスにおけるリーダー講習などが組まれている。春学期は4月、秋学期は9月に開講されている。講義や実技はJIUの教員や外部講師が指導する＝写真。また、大学の学部授業の受講ができることや図書館など大学施設も利用できる。修了者には「シニア・ウェルネス大学修了証書」が授与される。

やハンガリー、中国などで環境問題や政策、教育、まちづくりなどを実地に研修し、また現地の学生と交流を図りながら文化についても学んでいる。これまでの研修の様子を、写真を用いて紹介した。このあと、国武陽子准教授が「きみも生態学者 ～フィールドワーク体験・晩夏編～」の体験授業を行った。

経営情報学部

ビジネス・プレゼンテーション・コンテンツ

3月23日、「明日を切り拓くための挑戦」と題するビジネス・プレゼンテーション・コンテンツが実施された＝**写真**。

産学連携協定を結んでいる株式会社バロックジャパンリミテッド社のブランドAZUL by moussyについて、経営情報学部の学生が個人やグループで調査研究し、企業様に提案するというものだ。3年生と2年生から3グループ7名の学生達がエントリーし、さまざまな切り口からAZUL by moussyに対する提案をプレゼンテーションした。

バロックジャパンリミテッドの方々が審査し、学生にとっては自分達のアイデアやプレゼンスキルを試す、良い機会となった。3つのグループごとに発表後に質疑応答の時間が設けられ、予定の時間を越えて活発に質問や意見交換がなされた。

メディア学部

生活ガイドブック

メディア情報学科クロスメディアコースの庄雲芯さん、李思卓さん＝中国出身＝が東金市の街波通信社での研修で中国語表示による「東金生活ガイドブック」を制作した。メディア学部では3年次の夏季休暇の時期に1～2週間のインターンシップ研修を設定しており、キャリア形成教育の見地から、将来を見据えたキャリアデザインや働く意味を理解し、さらには実践的なスキルを身につけることを目的としている。

「東金生活ガイドブック」により中国人留学生にとって生活利便性が高まりそうだ。

日韓共同製作プロジェクト ――「コッチばあちゃん」

韓国の東西大学の学生たちとともに日韓合作映画『コッチばあちゃん』を製作した＝**写真**。5月23日にその予告編メイキング映像が公開された。

1930年代に韓国・済州島から千葉県鴨川市にやって来た海女と、その血を受け継いだ日本の女子大学生と釜山からの留学生との出会いを中心に、100年にわたる家族のつながりを描いた作品である。映画製作の準備は2015年10月から始まり、学生たちは20世紀から約100年の日韓の近代史を研究し、インターネットを利用したWeb会議を重ね撮影に臨んだ。

監督は城西国際大学の中川冬馬さん、女子大学生役には井上佳奈さん、韓国からの留学生役には東西大学のキム・ホドンさん。主演のコッチばあちゃんにはブルーリボン助演女優賞を受賞した女優の宮下順子さんを迎えた。

真夏の安房鴨川で厳しい暑さに耐えながら、製作を通して日韓の学生たちは大きな絆で結ばれた。ロケーション撮影においては鴨川市役所を始め、市立図書館、地元の旅館や民宿、そして観光学部から全面的な協力を得ることができた。また、鴨川市に実在する済州島出身の海女のお墓がある寺院や地元の名所、観光地を取り上げたことで、国内はもちろん韓国においても多くの人々に広く安房鴨川を知ってもらう機会にもなった。

国際人文学部

ザンビア大使館から

7月12日、在日ザンビア共和国大使館のVictor Mumba一等書記官が杉林学長を表敬訪問＝**写真**＝し、国際交流学科で講演を行った。Mumba一等書記官は、2014年にザンビア大使から手渡された本学発行の英字新聞『JIU TIMES』を読み、城西国際大学を知ったという。国際ネットワークとその推進力に驚き、ぜひとも訪問し、多彩な留学制度や多くの国からの留学生受入れ、グローバル人材育成の取り組みを詳しく知りたい、また、ザンビアの素晴らしさを学生に知ってほしい、との思いが今回の表敬訪問となった。

杉林学長とともに懇談した吉田朋彦副学長・国際人文学部長・国際教育センター所長は「城西国際大学がグローバル人材は、在学中の短期・長期の留学経験が契機となり、成長した語学力と異文化理解力、コミュニケーションサービス力が社会に評価されていることと思う」と説明した。

その後、国際交流学科生を対象に開催した。女子駅伝部と一緒に、新入生を中心とする観光学部の学生と市民の約150名が陽春の林道を散策し、鴨川の豊かな自然を満喫した。

参加者は安房キャンパスから太海駅を経由し創立者水田三喜男先生の生家までの約12㌔を歩き、嶺岡林道の自然、歴史、文化について学んだ。観光学部の2・3年生は、創立者生家（母屋、長屋門）や句碑についての説明を行ったり、野点やカフェで参加者をもてなした。

マレーシア元観光大臣が来校

7月7日、マレーシア元観光大臣のン・イェンイェン博士が鴨川市の亀田郁夫市長を表敬訪問した。亀田市長とは日本や鴨川の観光についての意見交換が行われた。

安房キャンパスでは、ン・イェンイェン博士の講演会が開催された。講演タイトルは“Branding Kamogawa Tourism”。「オリンピックに向けて、まずは一人ひとりが鴨川の魅力を知ること、そして強みを活かした取り組みと弱みを改善していくことが大切」と提言し、鴨川シーワールドや地酒の寿萬亀などの具体例を交えて講演された。また学生たちは、そのような地域の魅力を観光客に効果的に紹介するための鴨川の観光資源の検討などを行い、インバウンド観光学への理解を深めた。

観光学部では、このほかにも留学生が外国人観光客向けの千葉県周遊ガイドの制作協力、千葉県の「チーバくん大使」や「鴨川市国際観光応援隊」に選出されるなど、千葉県や鴨川市の魅力を世界に発信する取り組みを積極的に行っている。

観光学部

第11回さくら祭り&ウォーキング

4月4日に「第11回さくら祭り&ウォーキングin嶺岡中央林道」を

オープニングセレモニーでのテープカット

ASEAN留学生による文化紹介

かわいらしいフラダンサーも、大学祭に友情出演

□紀尾井町キャンパスでは

初の3大学合同大学祭

紀尾井町キャンパスで初の大学祭を10月1日、東京紀尾井町キャンパスで、第1回 城西大学、城西国際大学、城西短期大学 合同大学祭「JOSAI TRIVERSITY FES」（トライバーシティ・フェス）を開催した。「3大学の学生が通う各大学の学生からの希望により、大学祭実行委員会が設立され、実現との運びとなった。

オープニングセレモニーでは、杉林学長ら3大学の学長が「愛があふれる大学祭です」などと挨拶したあと大学祭実行委員会の城西大学代表の理学部2年山森君が「開催には多くの困難がありながら、何とか仲間たちで協力し、問題を解決していきました。この第1回合同大学祭を3大学の交流だけではなく、地域の方々とも繋がれるイベントにしたい」と開催の言葉を述べた。

合同大学祭では、城西国際大学メディア学部の各ゼミが運営に協力した。舞台構成、音響設備、会場演出などの分野で専門的に勉強しているゼミ学生が日々学んだ知識を生かし、大学祭を盛り上げた。また、ステージでは、演劇部による公演、JIUアイドル部によるコンサート、ダンスサークルやDJイベントを行い、来場者を沸かせました。

1階ステージでは、学生お笑いコンビによる漫才やヨーヨー演武、東金キャンパスからゲスト出演したJIU学友会吹奏楽部のコンサートや、外部団体によるフラダンスの公演も行われた。

教室発表部門では、メディア学部の映像体験やアニメーション体験、ASEAN留学生による文化紹介発表などを行いました。また、寿司、やきそば、おでん、焼きサンマなどの屋台も特設され、人気を集めた。

地域に住む多くの方も来場し、理学部の学生によるストラックアウトや粒粒アイス販売、カードゲームイベントを楽しんでおられた。またメディア学部学生の特殊メイクサークルによる本格派お化け屋敷は、入場するのに1時間もかかる盛況ぶりだった。来年も「JOSAI TRIVERSITY FES」（トライバーシティ・フェス）でお会いしたい。

V4＋日本 移民問題セミナー

2月22日、紀尾井町キャンパスで「V4＋日本」セミナーが、学校法人城西大学と外務省・V4諸国の共催により開催された。5度目の本学共催となる今回は、V4議長国であるポーランドからの提案で移民問題をテーマとし、16カ国を超える各国大使館員、大学研究者、メディア関係

ブームのきっかけを作った。

□法人本部では

水田三喜男記念国際賞

学校法人城西大学は創立50周年を記念して「水田三喜男記念国際賞」を創設し、2月7日、伊藤若冲ら江戸時代の日本絵画の再評価に大きな貢献をした財団「心遠館」の館長であるジョー・プライス氏に贈呈、授与式を東京紀尾井町キャンパスで行った。

「水田三喜男記念国際賞」は創立者水田三喜男が日本の復興・発展に尽くした事績に思いを致し、その精神を体して著作あるいは実践行動において日本経済・社会・文化の活性化と発展に顕著な貢献をしてきた人を顕彰することを目的に創設された。

ジョー・プライス氏は米オクラホマ州生まれの87歳。1955年頃から日本の絵画の収集を始めた。63年に初来日し、コレクションを充実させた。81年に「心遠館」を設立し、88年にはコレクションの一部がロサンゼルスのカウンティ美術館に寄託され「ジャパニーズ・パヴィリオン（日本美術館）」がつくられた。

氏の収集は個人では最大の若冲コレクションであるとともに、世界有数の江戸絵画コレクションとなった。長い間研究者たちに見過ごされてきた江戸時代の個性的な画家たちを発掘しただけでなく、日本における様々な展覧会にコレクションから作品を積極的に貸し出すなど、近年の若冲

学生のインタビューに答えるプライス夫妻

JIUの「動き」
—あれも、これもあった

者ら約70名が参加した。

議長国のポーランドを代表してピョトル・ショスタック臨時代理大使が基調講演を行い、「昨年はV4発足25周年という歴史を刻んだ年であったが、英国のEU離脱の影響などもありV4諸国も困難な局面を迎えている」と述べた。

各セッションでは、1）現在の移民危機の原因 2）移民問題におけるV4の政策 3）日本から見た移民問題というテーマについて活発な意見交換が行われた。

水田三喜男記念館が完成

学校法人城西大学が創立50周年記念事業として城西大学坂戸キャンパス（埼玉県坂戸市）で建設を進めてきた水田三喜男記念館が完成し、3月28日、竣工式を行った。

記念館は、地上2階建て約1800平方㍍。講堂、多目的スペース、ファウンダーズルームなどを備え、ファウンダーズルームでは日本の戦後史とともに歩んできた水田三喜男の生涯と大学の歴史を、勲一等旭日大綬章や各国からの勲章、執務机、大礼服など約100点のゆかりの品々や写真、映像で再現している。

中国訪問

学校法人城西大学一行は、6月4日～9日の日程で、中国の天津、大連、瀋陽地域にある7つの提携校を訪問し、友好関係の継続と交流の推進をはかった。

天津では、天津外国語大学を訪問し、修剛学長をはじめとする大学代表との面談。天津外国語大学とは、2008年から城西国際大学との共同教育がスタートしており、現在、日本語学院、国際メディア学院、浜海外事学院と大学院（修士課程）から毎年多くの学生が、留学している。

5日には大連外国語大学へ表敬訪問。劉宏学長と会談し、これまでの両大学の交流を振り返ると共に、大連外大・城西の連携推進を話し合った。

6日は、大連理工大学の王寒松党委書記を表敬訪問した。王書記から、これまでの大連理工大学との交流について感謝が述べられ、今後も一層の交流推進を約束した。続いて、奨学金の授与式と13回目となる「水田三喜男記念文庫」の贈呈式を行い、文庫の目録が贈られた。

7日には、瀋陽市において、提携校の魯迅美術学院の教授である王希奇先生のアトリエを見学。引き続き、日中連携大学院において博士号の学位を取得し、あるいは近く取得を目指している東北大学外国語学院の先生方と面会した。また、城西国際大学の卒業生で、東北大学外国語学院において、日本語教員を務めている2名の教員（羽鳥美有紀さん＝2015年3月人文科学研究科グローバルコミュニケーション専攻修了、坂西昭広さん＝2015年3月人文科学研究科グローバルコミュニケーション専攻修了）にも会い、現況を聞いた。外国語学院が持つ日本人教師枠2名のうち2名とも城西国際大学が得ている。東北大学において、王建華副学長、陳凡教授、王秋菊外国語学院副院長・韓忠軍国際交流センター副センター長、鹿陽国際交流センター国際交流課課長と面会した。王副学長は、分析化学の専門家で、日本および世界の大学事情に詳しく、杉林学長らと高等教育と今後の交流について意見交換がなされ、東北大学と城西大学・城西国際大学の交流について、引き続き積極的に推進していくことが約束された。

8日には、一行は、瀋陽師範大学の林群学長を表敬訪問した。同大学は師範大学でスタートしたが、現在、人文社会系は遼寧省で第3位の大規模な大学でもあり、さらに芸術系の学部や観光系の旅行マネジメント学院を有する総合大学。メディア学部、観光学部との交流を希望している。

また、瀋陽薬科大学を訪問し、畢開順学長、程卯生副学長、方亮薬学院長、蔡洪宇国際交流所長、夏煥章所長、楊静玉院長、路金才副院長と面談した。方薬学院長は、城西大学の森本雍憲教授、杉林学長の教え子ということで、大変な歓迎を受けた。

ブダペスト商科大学表敬訪問

学術協力提携を結んでいるハンガリーのブダペスト商科大学のバラーシュ・ヘイドリッヒ学長ら一行が6月13日、法人本部を表敬訪問した。

一行には、ノルベルト・バラノヴィチ駐日ハンガリー大使も同行。本学からは、小野元之理事長代理（当時）のほか、白幡晶学長、杉林堅次・城西国際大学学長や関係学部の学部長らが会談に参加した。

小野理事長代理（当時）がブダペスト商科大学は2007年1月に、ハンガリーの大学として、初めて本学と学術協力提携を結んだ先であり、過去10年間に我々の交流は大きく発展し、本学とハンガリーの関係は日本でも有数の内容と規模に育ちました」と歓迎の挨拶。ヘイドリッヒ学長が、歓迎に対する感謝の言葉を述べた。この日の意見交換で、学生や教員の相互交流などを通じて一層の協力関係を深めていくことを確認した。

チェコ首相が来校

6月28日、東京紀尾井町キャンパスにチェコのボフスラフ・ソボトカ首相が来学、城西大学より名誉博士号が授与され＝**写真**、その模様がチェコの3大メジャーテレビ局の一つ「Prima」で放映された。ソボトカ首相は、チェコ・日本国交回復60周年を記念して初来日した。

チェコ、ハンガリー、ポーランドなどへの留学経験を有する学生や、第2外国語でハンガリー語、チェコ語、ポーランド語を履修している学生も参加した記念講演会では、テレビ局から学生がインタビューを受け、その模様がチェコで放映された。

グローバル人材の育成に向けた国際交流活動の強化を掲げて世界の様々な大学と積極的に国際交流を深めており、特にV4（ヴィシェグラード4）と呼ばれるチェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアの中欧地域との教育交流を強化している。チェコにおいては、ソボトカ首相の母校であるマサリク大学、プラハ経済大学、カレル大学の3大学と学術交流協定を締結し、これまでチェコから5人の学生を受け入れ、城西大学・城西国際大学からは14人の学生をチェコへ送り出している。

小野理事長特別補佐名誉教授授与

9月22日、小野元之理事長特別補佐は、長年の提携校である遼寧省の瀋陽師範大学（林群学長）より、名誉教授を授与された。これは、小野理事長特別補佐のこれまでの教育行政における業績、また大学運営においての指導力を発揮した業績、そして瀋陽師範大学との交流に大きな功績を残したことが評価された。

名誉教授授与を記念して、瀋陽師範大学内にある遼寧省古生物博物館4階講演会場で、学生150人が集う中、小野理事長特別補佐による「日本の高等教育の現状と将来――我が国の大学改革の課題――」というテーマの特別講演がなされた。通訳を于洋教授が務めた。聴講した学生から、日本の教育の現状から日本に留学した時の学部選びのポイントまで幅広い質問が寄せられ、次世代を担う学生たちに大きな反響を呼んだ。

「王希奇展 ― 一九四六」

9月28日～10月5日まで、中国の歴史画家・王希奇氏の展覧会「王希奇展 一九四六」を東京美術倶楽部（東京都港区）で開催した＝**写真**。胡蘆島港からの105万人余の残留日本人の大送還をテーマとした大作「一九四六」など計21点を展示した。開催初日の28日には、東京紀尾井町キャンパス3号棟で開催記念シンポジウムが開かれた。

王氏は、中国において墨絵と油絵の融合という独自のスタイルを確立し、世界的にも評価の高い歴史画家。学術交流協定を締結している中国・瀋陽の魯迅美術学院に勤め、長年にわたり中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト契約画家として活躍している。3年間半という長い年月をかけて、縦3㍍、横20㍍におよぶ巨大な作品「一九四六」では、葫蘆島からの数百名の引揚者が描かれ、その一人ひとりに作者の思いが込められている。

研究室探訪

教養の大地を耕せ

地域に根ざした国際大学であるＪＩＵには、様々な分野で研究を行っている研究室がある。今回、東金キャンパスにある環境社会学部の国武陽子・准教授、福祉総合学部理学療法学科の谷内幸喜教授の研究室を訪問した。

谷内幸喜 教授

「情熱」が必ず自分を進歩させてくれる

――先生のご専門は、神経系理学療法学、介護予防学、リハビリテーション管理学、チーム医療と多彩ですが、いま力を入れている研究テーマは？

「神経系理学療法学、特に脳・脊髄損傷に対する理学療法学です。私がリハビリテーション学について学び始めた昭和50年代頃と比べ脳をはじめとした神経系についての考え方が大きく変わってきました。以前は、中枢神経は損傷すれば元に戻らない、というのが通説でした。リハリビテーションも損傷していない残された機能を活かしていくという残存的なリハビリテーションが主流であったと思います。しかし、今は中枢神経の可逆的変化や損傷後における神経ネットワークの再構築もエビデンスの下、学問体系化され『損傷した脳も直っていく』という時代になりました。さらにiPS細胞の研究も急速に進んでおり、再生医療後におけるリハビリテーションが重要な役割を果たすと期待されています。特に脊髄損傷のリハビリテーションはここ近年で激変してくるものと思われます。

再生医療後におけるリハビリテーションが主流になる頃は、私はもう現役で理学療法士はやっていないと思います。少し悔しい思いもありますが、疾病構造の大変化や高度医療の進歩といった激動の変化の中で培った臨床力はかけがえのない私の財産だと自負しております。これからはこの財産をバラマキ20年後、いや30年後40年後に活躍できる理学療法士を育て託したいと思っています。それが、今の私に課せられた使命だと思っています」

――いま大学は地域との連携が期待されています。先生は、愛媛大のご出身ということもあり、愛媛県の社会福祉協議会などで活動をしていましたが、地域リハビリテーションにおける理学療法士とは？

「愛媛県理学療法士会の福祉担当理事や愛媛県社会福祉協議会の運営委員等で地域のホームヘルパーの介護指導などを行ってきました。脳卒中などの脳障害は、かつては60代、70代に多く見られる病気でした。いまは、食生活変化や生活習慣病により40代、50代で発症するケースが多くなっています。残りの人生が長く、それだけリハビリテーションの期間も長くなっています。私が資格を取得した35年前はほとんどの理学療法士は病院内で勤務していた時代で、在宅や地域でリハビリテーションを行うことは皆無に等しい時代でしたから、今や在宅・地域で活躍する理学療法士の増加は目まぐるしいものがあります。

よく医療から福祉といったことが謳われていますが、私の経験上、在宅・地域で活躍する理学療法士には、一流のマネージメント力が要求されます。医療分野で働く理学療法士よりも知識的・技術的に高いレベルでなければならないと思っています」

□ チーム医療には個々の力の強さが必要

――ＪＩＵは、2016年に 理学療法学科を設置しました。「福祉」、「看護」、「薬学」が連携しサービスの担い手としても活躍できる地域づくりが期待されています。

「専門職アイデンティティの強い医療職にとって、他専門職への認識を広め、各職種が連携しチーム医療を行うことの重要性は言うまでもありませんし、他大学の専門職教育でも同じようなことはやっていると思います。

〝連携、連携……〟と言葉だけが独り歩きし個々の専門性が薄らいでいる場面を幾度となく経験した者として、私が今の医療・福祉の現場において強調したいのは、連携・チーム医療によって1＋1が4にも5にもなっていくためには、個々の力が強いことが必須条件だ、ということです。強い専門があるからこそチーム力もつきます。互いに個々を強くすることが大事です。

JIUの学生には、真のチーム医療を理解してもらい即戦力として地域医療に貢献してもらいたいと思っています」

――学生へのメッセージを

「理学療法士は、人を相手にする仕事です。患者には家族もいる。多くを学び、患者を何とか治したい、という『情熱』を持ったセラピストを目指してほしいと思います。この『情熱』が必ず自分を進歩させてくれます」

国武陽子 准教授

より良い情報にアクセスする習慣を

――先生は生態学が専門です。担当科目は、環境生態学、里地里山保全論、環境教育論などです。いま力を入れている研究テーマは？

「『生態系サービス』の研究です。自然が人間に与えるサービス、のことです。私はその中で野生生物の花粉媒介による、農作物への貢献に注目しています。昆虫や鳥が花粉を運ぶ送粉という行動は人間にとって経済的な価値を生みます。大学のある千葉県内で木更津から千葉市内にかけて自然度の違うブルーベリー園で調査・観察を進めてきました。自然が豊かな、自然度の高いポイントでは、昆虫の種類が多く、果実の結実がよいことがわかってきました」

――いま大学は地域との連携が期待されています。学生たちと近隣の里山の保全の活動などをしていらっしゃいます。どういう活動ですか。

「一つは地域住民と連携した山武市の早船地区の里山の保全です。九十九里浜と下総台地の境界には『谷津田』といわれる山に囲まれた水田が多くあります。しかし、高齢化などが原因で耕かされずにますます荒廃し、乾燥化が進んでいます。谷津田には水環境に依存した生物が多く生息しています。トウキョウダルマガエルやアカガエル、ヘイケホタル、トウキョウサンショウウオといった小動物で、乾燥化などの生息地の消失で急激に個体数を減らしています。

地元有志による『早船里山の会』は、不法投棄でゴミだらけになっていた周辺の整備を進めて里山の保全に取り組んできました。私たちは4年前から早船里山で動植物の調査を行い、すでに410種の生物が確認され、多くの希少種が見つかりました。これらの生物の生息地を守るために、里山の会と協力しながら、学生たちと池を掘り、水路を整備し、田んぼを復元したりしています。またそういった活動をもとに地元の子供たちを対象に自然観察会や体験会を学生たち自らプログラムを考え開催しするなど、地域に貢献する取り組みをしています。

もう一つは企業と連携し『希少種トウキョウサンショウウオの生態調査と保全の取り組み』を行っています。東金市の隣の山武市内を通る高速道路付近に東日本高速道路会社（ＮＥＸＣＯ東日本）が20年以上前に造成した保全のための池があります、そこで生息数や産卵状況などを調査し、深刻な影響を及ぼしている外来種のアメリカザリガニの駆除の取り組みをしています。このようにゼミの学生たちは自分の専門をもち卒業研究をしながら、同時に環境保護の現場で様々な人たちと関わり合いながら自分の研究や力を活かす経験をし、成長していきます」

□ 生物生息地の保持管理技術者が都会にも必要

――学びの成果の一つとして、「ビオトープ管理士」の資格取得の指導を行っていると聞いています。

「生物の生息地の保持管理を担う技術者の資格であるビオトープ管理士の資格取得の指導を行っています。都市の開発行為に関しても、生物の生息・生態についての観点が求められています。例えば、ビル建設にしても、これまでは、周辺に植える樹木については、単に景観を考えて植えてきました。しかし『実をつける樹木』にすると、鳥類がやってきます。池をつくるのも一緒です。生物の生息地の保持管理を担う技術者が、都市開発にも必要な時代です」

――先生は学生・大学院時代からツバキの送粉についてメジロとの関係の研究や野生の植物個体群とその送粉者との相互作用について研究を行っていました。若い時代の学習・研究について、学生へのメッセージを。

「研究には最先端のより良い情報にアクセスする習慣を身につけて調べる能力を向上させること、そして自分が能動的に何かに取り組む力が求められます。そういった力を卒業研究を通じて身につけ、自らを成長させ、沢山泣いたり笑ったりした経験を胸に社会にでていってほしいです」

空を翔る JIU Sports

JIUでは、学問とともに様々なスポーツ分野でも積極的に活動を行っています。今回は、硬式野球部、サッカー部、柔道部、剣道部、女子駅伝部、女子ソフトボール部、サーフィン部を紹介します。

硬式野球部

全日本選手権ベスト8へ

有名スラッガーだった監督が大所帯を率いる——強豪校出身者も多数

1992年の開学と同時に創部。95年秋季リーグで2部から1部へ昇格した。07年に佐藤清監督が就任。11年秋季リーグで1部初優勝など秋は3回、春は15年に優勝している。

佐藤監督は、奈良・天理高校、早稲田大学、日本生命のチームでスラッガーとして活躍した。監督就任以来、10年が経つが、一昨年の春季リーグ戦の優勝を経て、全日本大学野球選手権大会に初出場となった。初戦を突破したが、2回戦で流通経済大学に敗れた。2つ勝てば、全国ベスト8になり、「強豪大学」として認知されるという。

現在、部員は、マネージャー、学生コーチらを含め、166人の大世帯。部員の出身高校を調べてみると、仙台育英、木更津総合、東海大相模、修徳、常総学院、といった高校野球界の強豪校が目立つ。

佐藤監督の指導方針は「基本的なものの考え方、行動を身につけること」。「あいさつ、返事は、その選手の〝反応〟だ。それが出来なければゲームができない」と言う。

選手らの目標は、やはり全日本大学野球選手権に出場し、ベスト8入りすることだ。授業の関係で選手らは、5部に分かれて、それぞれ2時間半ずつ練習する。東金キャンパスに近い水田記念球場が、練習拠点だ。ここ最近、千葉県内の大学野球のレベルが上がり、ライバル校も増えた。今年の春季リーグで優勝した国際武道大は、全日本大学選手権で決勝まで進み、立教大と対戦した。その国際武道大を最後まで苦しめたのが城西国際大学だ。

プロフィール
部長　野澤建次
監督　佐藤 清
コーチ　皆川慎吾
コーチ　田中成明
コーチ　高浦美佐緒
主将　中西北斗（金光大阪）

サッカー部

JFA公認S級の卓越した理論とチームワークで挑む

今年3月に就任した福井哲監督は、日本サッカー協会技術委員・ナショナルトレセンコーチなどを歴任した。前職のFC東京では、育成部長などをつとめ、選手、コーチの育成に手腕を発揮した。JFA公認S級のライセンスを持つ。サッカーの卓越した理論家である。

福井監督率いるサッカー部の部員（マネージャー含）は現在90人。目標は、関東大学サッカーリーグでの2部昇格だ。千葉県大学サッカーリーグを勝ち抜き、その後の関東大会で2位以内に入れば、自動昇格となる。福井監督は「自立している選手、考える力を持つ選手になってほしい。〝魔法のツエ〟は、わたしが持っているのではない。選手自身が持っている」と期待する。

「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK」でのびのびと練習する選手たち。徳元悠平・副主将は「4年生がまとめ役になってチームワークを良くしたい。2部昇格を実現させたい」と意気込む。

プロフィール
部長　松田世治（経営情報学部）
監督　福井 哲
ヘッドコーチ　村井慎二
コーチ　大場賢治
GKコーチ　岸川義隆
外部コーチ　京谷和幸
主将　澤 颯人（日本航空高校）
副主将　近藤諒大（コンサドーレ札幌U-18）
副主将　大野嵩仁（柏レイソルユース）
副主将　徳元悠平（沖縄県立那覇西高校）

女子ソフトボール部

工夫した戦い方で強豪校に太刀打ち

「全日本大学選手権大会に出て1つでも勝ちたい」と話すのは、新主将の六角風花（ろっかくふうか）（福祉総合学部3年）。選手たちは、それを照準に練習に励む。部員は24人。東金キャンパス近くにある水田記念球場で、授業の時間割に合わせて、朝練習か夕方練習を行っている。秋学期のスケジュールは、火曜日、金曜日は夕方、水曜日、木曜日は朝の練習だ。月曜日はオフだが、土曜日、日曜日は練習試合もこなす。

創部は2003年。現在、指導するのは、経営情報学部の高橋光平助教だ。高校は男子ソフトボールの名門である新島学園を卒業したが、ソフトボールとは縁がなく、仙台大学時代はアルペンスキーを得意とした。2007年にJIUの教員となり、翌年から女子ソフトボール部を任された。当時は、JIU職員で、現在コーチの田邉敏広さんがチームを育成しており、ほどなく全日本大学選手権大会への出場の機会を得た。

それからやや低迷の時代があったが、昨年の全日本大学選手権大会に8年ぶり2回目の出場を果たした。しかし、いずれも初戦で敗退し、残念ながら全国大会では勝利を味わったことはない。

主将の六角は「試合の後半が弱い。選手一人一人は、いいものを持っていると思うので、集中力を高めれば……」、高橋監督も「JIUよりも体力・技術が勝っている大学も多いが、戦い方の工夫次第で強豪校に太刀打ちできる」と話す。

プロフィール
顧問　七井誠一郎
監督　高橋光平
コーチ　田邉敏広
主将　六角風花（花巻東）

女子駅伝部

往年の名ランナーが監督就任 シード入りへ抱負

女子駅伝の監督に大塚正美・経営学部教授が復帰した。

大塚監督は、日本体育大学時代、1年生から4年生まで正月恒例の箱根駅伝に出場した。それもすべて区間賞を獲得した名選手である。とくに1年の時に走った8区で区間新記録、4年の時は2区で区間新記録を樹立、この記録はそれぞれ15年間、13年間も破られなかった。

2000年にJIUに入り、女子駅伝部は、2002年には全日本大学女子駅伝に初出場。以来、10回連続出場を重ね、この間、最高で3位の座を占めた。姉妹校の城西大学の活躍もあり、「女子駅伝に城西あり」を全国に印象付けた。

ここ数年は、部員も減り、低迷したが、大塚監督は「自分で研究して結果を残せ。スポーツだけの人間になってほしくない」と指導方針を示しながら「全日本駅伝でシード校に入れるチームを作りたい」と抱負を語る。

キャンパスは、女子駅伝部員が再び「杜の都・仙台」で快走する日を楽しみにしている。

大塚正美監督

柔道部

全国から選手が集う　高い意識でさらに上のレベルへ

部員は男子24人、女子は13人の総勢37人が1つの道場に集う。

2001年から強化部に指定された柔道部。当初の部員は2名のみ。翌年から開催した「水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」を通じ、徐々に全国各地から選手が集うようになってきた。

それから時を刻み、いまや男女とも全日本学生柔道優勝大会出場が「前提」となるまでになったが、今年の関東予選では、男子がまさかの準決勝敗退を喫し全日本学生への連続出場が「3」でストップ。女子は7年連続で出場するも、全国の壁に阻まれ初戦で姿を消した。

後期より新体制としてスタートを切った柔道部。男子は来年の目標を「全日本出場権奪還」を、女子は「全国で勝つ」ことを掲げた。選手ひとりひとりが高い意識を持って日々の稽古に励んでおり、目標達成はもちろん、さらに上のレベルを目指せるのでは？　そんな期待を寄せている。

プロフィール
部長　渡辺修朗
監督　秋山修一
主将・男子　土屋皓仰（文星芸大附）
主将・女子　久保麻衣香（長崎明誠）

剣道部

「正直・素直・求道・勝負」をモットーに全国を目指す

男子部員17人、女子が21人。稽古時間は、剣道部員の所属学部がいくつかに分かれていることもあり、全員が揃う夕方6時半から約2時間、稽古する。

女子の主将、中川志穂は「一人一人の実力アップと自信が課題だ」としながら全日本女子学生剣道優勝大会の団体戦の出場を狙う。

監督の今井英雄さんは、城西大学の出身で、学生時代に全国大会出場（個人ベスト16）を果たすなど活躍。JIU開学の1992年に職員となり、いまは留学生別科に勤務するかたわら剣道部を指導している。「大学四年間の短い期間に剣道をとおして『心こそ大切』を一人一人が自覚できれば」と今井さん。

その成果が出たのが、開学10周年を皮切りに勝負への拘りを抱いた女子剣士が集うようになり、全日本学生優勝大会団体戦に初出場し、同大会に6年連続出場したこと。関東でもJIUが一目置かれる存在とされるまでに至った。また、今まで個人戦では男子が4人、女子の5人が全国大会への出場を果たした。

男子の主将、大津史裕は「『正直・素直・求道・勝負』が部のモットー。その心の在り方を全部員が追求し続ければ、必ずや団体戦での全国大会出場を果たせる」と決意を話す。

プロフィール
総監督　今井英雄（剣道教士・七段）
主将・男子　大津史裕（九州学院）
主将・女子　中川志穂（作新学院）

軟式野球部（観光学部）

東関東大学秋季リーグで優勝——3年ぶり2度目

東日本大学軟式野球選手権大会への出場決める

2010年4月に創部された。河上國男監督を慕い、その出身地の四国から安房鴨川キャンパスに来た選手が9割を占める。四国といえば高校野球の盛んな地域。入部して来る選手たちの技能水準も高い。

最近の戦績では、今年度の東関東大学軟式野球連盟春季リーグ戦において5戦全勝、東リーグ1位で春季代表決定戦へ進出。代表決定戦準決勝では国際武道大学に7-2で勝利。決勝戦では帝京大学に1-4で敗れ全日本選手権への出場を逃した。しかし、秋は奮起した。10月6日に東関東大学軟式野球連盟秋季リーグ戦の決勝戦が行われ、日本大学経済学部を8回コールドで破ったのだ。3年ぶり2度目の優勝を果たしたのだ。11月12日から東京都で開催される第38回東日本大学軟式野球選手権大会に出場する。

JIUは、地域スポーツの育成を念頭に、春に「水田杯中学校野球大会」、夏に「水田杯少年野球大会」を鴨川市内で開催してきた。鴨川周辺の多くの野球チームが参加し、「風物詩」として地元に溶け込んでいる。プロ野球の西武ライオンズのスター選手だった石毛宏典・城西国際大学特任教授が大会会長をつとめ、軟式野球部が全面的に協力して試合進行などを円滑に行っている。毎回、地元メディアに「大会では、軟式野球部員が裏方で大活躍」と報道されている。

東関東秋季リーグ戦で優勝を果たし、河上國男監督を胴上げする選手たち

プロフィール
監督　河上國男
主将　井部貴志（新田高校）

サーフィン部

国内屈指の強豪校として2020東京五輪も視野

JIUは、国内屈指のサーフィン強豪校である。6月の全日本学生選手権春季大会で26回目の団体優勝を果たしている。サーフィンは20年東京五輪で初開催されることが決まり、城西国際大から日本代表選手が誕生する可能性は十分。山口大介主将（経営情報学部2年）、河野留偉（国際人文学部2年）、菜花つばさ（国際人文学部4年）に意気込みを聞いた。

河野と菜花ら32人の部員の多くが、五輪会場となる一宮町で波に乗っている。小学3年からサーフィンに取り組む山口は、2年生ながら主将を任され、統率力を発揮。頼れるリーダーだ。飯岡をホームポイントとする山口は「今まで皆でまとまって練習することが少なかったが、だんだん皆が集まり、練習会を開いてレベルアップに取り組んでいる」と部の一体感が増したことを明かした。

日本サーフィン連盟の検定でショートボード1級合格者である山口と河野らが指導も行い、部員は着実に力をつけている。日の出とともに海に入り、授業を受けた後の夕方から再び波に乗る毎日。陸上トレーニングなども取り入れており、練習時間は一日4時間にも及ぶ。全日本学生選手権春季大会では26回目の団体優勝を果たした。全国で約30大学がサーフィンに取り組む中、城西国際大は宮崎産大と並ぶ強豪校と評される。

主将の山口（左）と河野

ダイナミックな「オフザリップ」を決める菜花。波が崩れる反動を利用してボードを返す技

広がる感動の地平線

サークル紹介

ＪＩＵには、「文化の地平線」も広がっている。大学創立とともに活動をスタートした学友会吹奏楽部などのサークルを紹介したい。

学友会吹奏楽団

人々の心を潤す「泉の楽団」

千葉県コンクールで11年連続金賞の実績も

大学創立の１９９２年から活動している。創部25周年を迎えた。東金キャンパスを拠点に活動、入学式・卒業式など大学の主要行事での演奏や演奏会、地域の老人ホームなどを慰問し、美しい演奏を披露している。人々の心を潤す「泉の楽団」である。

千葉県吹奏楽コンクールでは、11年連続金賞に輝いたこともある。２００８年には、初の全国大会出場を果たした。指揮者として率いているのは、ＪＩＵ５期生の山口聖一さん。千葉県吹奏楽コンクールでたびたび「指揮者賞」を受賞している。

現在、部員は約10人と少ないが、演奏会などでは、千葉県内・県外から卒業生の「楽団ＯＢ」が集まり、演奏をサポートする。日曜日は、全員がキャンパスに集まり、山口さんの指導で12時間も練習する。それ以外の日は、個人練習だ。

10月1日、紀尾井町キャンパスで城西大学・城西国際大学・城西短期大学の３大学による初の「大学祭」が開かれた。オープニングセレモニーのあとは、同吹奏楽団による演奏＝**写真**。学生や地域の方々を前に多数のポップスの曲が演奏された。手拍子も起き、吹奏楽団と聴衆が一体となっていた。団長の成田純梨さん（国際人文学３年）もフルートを弾むように吹いていた。

裏千家茶道部

「茶道を通して日本文化を」

部員26人のうち10人が留学生、と国際色が豊かだ。ロシア、フランス、ベトナム、中国、台湾、とさまざまな国・地域から学びにやってきた。「茶道を通して日本文化を」というところだろう。

大学の創立とともに創部された。師範のプルチョウ順子先生が指導している。週４回、東金キャンパス本部棟８階でお茶を嗜む。大学の行事に欠かせない存在で、内外の要人、提携大学の要人らが来校した際などでも茶会を開く。学生らのおもてなしの姿がういういしく映る、と好評だ。

部長の金子寛大さん（国際人文学部３年）は、「１年生の時に中国研修に行きました。その時に日本文化のことを尋ねられましたが、満足に答えられませんでした。それが茶道部に入るきっかけです」と話す。

金子さんら部員は９月29日、茶会を開き、学校法人城西大学主催の展覧会「王希奇展　一九四六」とその関連セミナーに参加した中国・東北大学の一行にお茶を呈した＝**写真**。

Star Dust Kids（手話・地域ボランティア）

90人の「大所帯」

大学創立とともにスタート

手話・手話コーラスと地域ボランティア活動を行っている。部員は90人の「大所帯」だ。当初はボランティアが専らだったが、「手話を取り入れたら」ということで、地域の手話サークルで手話を学んだという。

大学祭や12月のライトフェスティバルは、毎回、その手話コーラスが注目を集める。約20人がメーン舞台に立ち、手話コーラスを披露する（**写真**＝大学祭で）。

地域でも人気を集める。老人ホームなどでのイベントで車いすを押すのを手伝いながらのボランティア活動とともに手話コーラスで元気づける。

週５回、一時間半ほど練習する。オープンキャンパス（３月）に合わせ、東金キャンパスの大教室で単独のコンサートも開催した。約２００人が、手話コーラスを味わった。

代表の門倉直樹さん（福祉総合学部３年）は「大学創立とともに本格スタートしたサークルです。今年の大学祭、ライトフェスティバルに向けて、がんばりたい」。

Age of Bronx（ダンス）

ダンスのプロになったサークルOBも

ダンス好きが集まり、２００１年にサークルとしてスタートした。部員45人のうち34人が女子学生だ。東金キャンパスのエアロビクススタジオを拠点に活動している。

ヒップホップダンス・ブレイクダンス……。水・金曜日は全体練習、夕方６時から約３時間の練習はきつい。そのほかの日は個人練習だ。ブレイクダンスが得意な代表の佐久間祥吾さん（経営情報学部３年）は「毎日練習しています。大学から始める部員が多く、ダンスにはまっていきます。サークルＯＢでダンスのプロになった方もいます」と話す。

大学祭、ライトフェスティバルでのパフォーマンスには定評があ

る。「Age of Bronx」は「ステージの花」だ。

地域での活動も活発に行っている。近隣の病院に招かれ、ダンスのパフォーマンス。そのリズミカルな激しい動きは、入院している方々を勇気づけてきた。幼稚園では、子供の好きな曲に合わせて一緒に演技＝**写真**、大好評だった。

水田美術館

200点を超えるコレクション

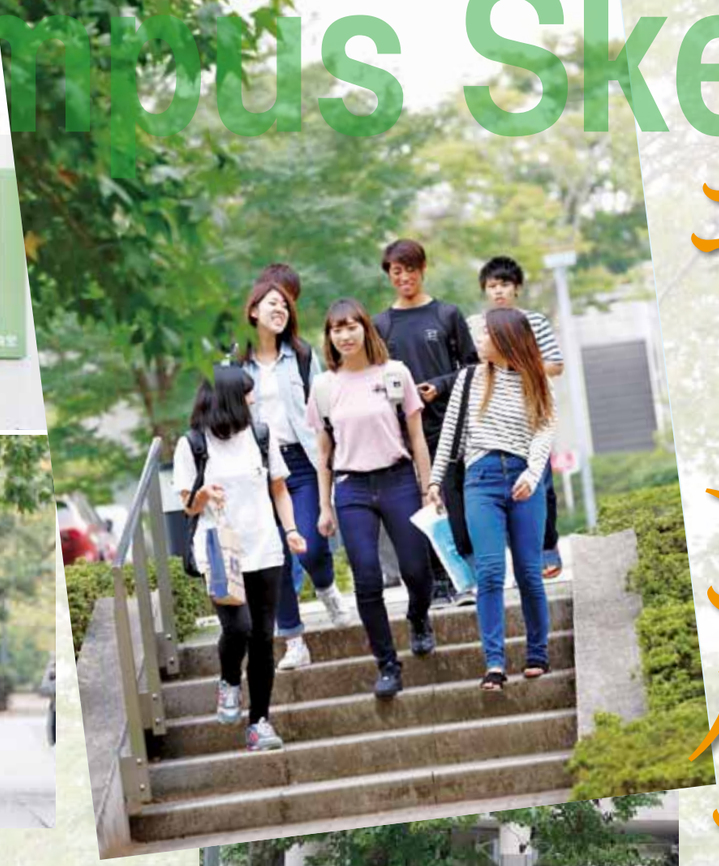
城西国際大学の水田美術館は、開学10周年を記念して開館した。所蔵している「水田コレクション」は、創立者の水田三喜男が蒐集した浮世絵を中心とする絵画２００点余りからなる。

浮世絵関連の企画、山武地域を中心とする千葉県ゆかりの文化の紹介、学部・学生との連携を３つの柱として、企画展、および講演会やギャラリートークなどを開催している。

Campus Sketch

キャンパス点描

学びがある。文化・芸術に親しむ心がある。スポーツに打ち込む輝く汗がある。
緑とやすらぎがある。友と語る姿がある。そこはJ－Uキャンパス――。



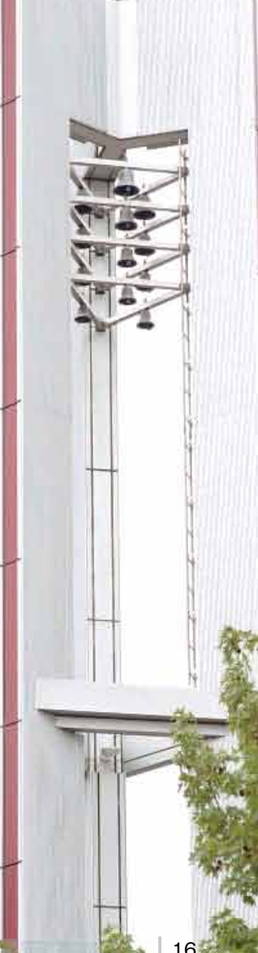
キャンパス点描

祝
サーフィン部
二〇一七年度学生部門
全日本学生サーフィン選手権春季大会
団体戦 優勝

GO GLOBAL!

JIU

JIU ROSE GARDEN



水田記念図書館
HMA 水田美術館

紀尾井町キャンパス

安房鴨川キャンパス

城西国際大学の歩み

1965年 **学校法人城西大学設立認可**

1992年 **城西国際大学開学**
経営情報学部経営情報学科、人文学部国際文化学科開設

1996年
人文学部福祉文化学科・国際交流学科開設。大学院人文科学研究科国際文化専攻・女性学専攻修士課程開設

1998年
大学院人文科学研究科比較文化専攻博士後期課程開設。経営情報学研究科起業マネジメント専攻修士課程開設。留学生別科日本文化専修課程・日本語専修課程開設

1999年
経営情報学部国際経営学科・福祉環境情報学科開設

2000年
大学院経営情報学研究科起業マネジメント専攻博士後期課程開設

2001年
経営情報学部サービス経営システム学科、人文学部メディア文化学科開設。留学生別科ビジネス・情報専修課程開設

2002年
大学院人文科学研究科福祉社会専攻・国際アドミニストレーション専攻修士課程開設

2004年 **安房キャンパス開設**
薬学部医療薬学科開設。福祉総合学部福祉文化学科・福祉経営学科開設（人文学部福祉文化学科、経営情報学部福祉環境情報学科）。JOSAI 安房ラーニングセンター開設。JIU 安房ラーニングセンター開設

2005年 **東京紀尾井町キャンパス開設**
経営情報学部総合経営学科開設（経営情報学部経営情報学科・国際経営学科・サービス経営システム学科の統合による）。メディア学部メディア情報学科開設（人文学部メディア情報学科の改組による）。大学院ビジネスデザイン研究科ビジネスデザイン専攻修士課程開設。大学院福祉総合学研究科福祉社会専攻修士課程開設

2006年
観光学部ウェルネスツーリズム学科開設。薬学部医療薬学科（6年制）開設。シニア・ウェルネス大学開学（シニア層向けコース）

2007年
福祉総合学部福祉総合学科開設（福祉総合学部福祉文化学科・福祉経営学科を統合）

2008年
人文学部を国際人文学部に改称

2010年
環境社会学部環境社会学科開設

2011年
メディア学部映像芸術コース開設。

2012年
看護学部看護学科開設。大学院薬学研究科医療薬学専攻博士課程開設。高円宮殿下記念スポーツパークが完成

2013年
大学院国際アドミニストレーション研究科国際アドミニストレーション専攻、人文科学研究科グローバルコミュニケーション専攻開設。紀尾井町キャンパス3号棟完成

2015年 **学校法人城西大学創立50周年**

2016年
福祉総合学部理学療法学科開設

2017年
杉林堅次学長が就任。**創立25周年**

創立者 水田三喜男の足跡を辿る

創立者・水田三喜男の伝記

戦後の混乱期に経済復興と成長に精力を傾けた元大蔵大臣・水田三喜男の評伝『水田三喜男伝　寒椿』（2700円）‖写真‖が、学校法人城西大学出版会から出版されている。筆者は、元毎日新聞政治部記者で最後の水田番記者だった。本書は、「人間・水田三喜男」「政治家・水田三喜男」「財政通・水田三喜男」「教育者・水田三喜男」の4部から成り、ウソをつかない、人の悪口を言わない、そんな稀有な政治家水田の素顔を豊富なエピソードで明らかにしている。

大蔵大臣と党政調会長を各7回務め、「財政の水田」として名を馳せた水田が、政治家を目指す原点は敗戦だったという。「無謀な戦争で国土が荒廃し、人材が失われ、国民の気力がなえているのを見て『これはいかん』と日本の再建を真剣に考えた」のだ。

1971年のニクソン・ショックから変動相場制への移行という通貨戦争は、最後の蔵相として迎えた。虚々実々の駆け引きをつまびらかにするくだりは、息をつかせない。国内の非難に耐えて、水田は〝憎まれ役〟の蔵相を誠心誠意務め上げた。

教育者としての水田は、今年創立50周年を迎えた城西大学の創立者として知られる。千葉県房総半島の村に生まれ、関東大震災後、旧制高校に入る前に時、地元の小学校で代用教員をしたことが教育に関心を持つきっかけだった。こんな言葉を残している。「政治家としての水田は、いずれ時が経つにつれて忘れ去られるだろう。水田は政治家である以上に立派な教育者でありたい」

「水田は比類なき勉強家であり、まれに見る清廉な政治家だった。そして政治に正義と共通善を求める、求道家でもあった」と、筆者は書いている。国内外の経済状況は先行き不透明だ。政治家の劣化も言われる昨今、水田は今の日本をどう見ているだろうか。

旧水田家住宅

旧水田家が存する旧曽呂村（鴨川市）は、嶺岡山脈の南麓を東から西へ通じる道を中心とした山村であり、嶺岡山は、わが国酪農の発祥地として知られている。

母屋、長屋門は、百数十年以上経て居り、貴重な文化財として、文化庁に登録されている。「学問を通じての人間形成」は建学の理念となった。その母胎こそ、まさに、この家屋なのである。

生家付近には外房と内房を結ぶ嶺岡林道が走り、水田先生は林道保全と郷土の活性化を願い、500本の桜を植栽した。その桜は「水田桜」として親しまれてきた。毎年春、さくら祭りが行われ、桜が植樹されている。

さくら祭りに先立って「ウォーキングin嶺岡中央林道」があり、学生や地域住民らが安房キャンパスから生家までの約12㌔を歩く。

水田三喜男 年表

1905年	4月	千葉県安房郡曽呂村に出生
1912年	4月	曽呂村尋常小学校入学
1924年	3月	千葉県立安房中学校卒業
1931年	3月	旧制水戸高等学校を経て京都帝国大学法学部卒業
1946年	4月	第22回衆議院選挙で自由党から出馬、初当選
1955年	11月	自由民主党結成、初代政調会長
1956年	12月	石橋内閣、通産大臣
1957年	2月	岸内閣、通産大臣
1960年	7月	第1次池田内閣、大蔵大臣
1960年	12月	第2次池田内閣、大蔵大臣
1965年	1月	城西大学創立、初代理事長
1965年	4月	城西大学開学式、初代学長（理事長兼務）
1966年	12月	第1次佐藤内閣、大蔵大臣
1967年	2月	第2次佐藤内閣、大蔵大臣
1970年	3月	自民党政調会長
1971年	7月	第3次佐藤内閣、大蔵大臣
1972年	1月	日米首脳会議（佐藤栄作首相、水田三喜男蔵相、福田赳夫外相、田中角栄通産相）
1976年	4月	勲一等旭日大綬賞叙勲
	12月	病気にて急逝、享年71歳

先輩訪問

地域に根ざし、かつ国際的な視野を持つ人材を送り出してきた大学であるＪＩＵには、様々な分野で活躍する〝先輩たち〟がいる。今回は４人のＯＧ・ＯＢに登場いただき、学生時代の思い出とともに、母校、そして後輩へのメッセージを送ってもらった。

大学の思い出、そしてこれから

高円宮 絢子（たかまどのみや あやこ）

2012年福祉総合学部
子ども福祉コース卒業

保育・福祉を学びたいと大学を探しているなかで、研修や実習など現場で学べる機会が多く、児童福祉だけでなく高齢者福祉や障害者福祉まで多岐に亘った福祉分野を学ぶことができるカリキュラムがあるということで城西国際大学福祉総合学部子ども福祉コースを選びました。

ずっと興味のあった〝保育〟〝福祉〟の授業ばかりのため、どの授業も楽しく、授業の度に新しい知識に触れ、学ぶことにワクワクしたのを覚えています。

子ども福祉コースは少人数クラス制度を取り入れており、保育士資格を取得するために決められた授業を受けていくので、ほとんどの授業をコースのみんなで一緒に受けていました。休み時間の教室移動も学食でのランチも、共に４年間を過ごした子ども福祉コースの17人は、今でも私にとって本当に大切な思い出です。今年度から監督に、ＦＣ東京で選手育成に尽力されてきた福井哲さんが就任され、大学の顔となるべくサッカー部は更に強くなっていきますので、応援よろしくお願いいたします。

城西国際大学は国際総合大学として海外の様々な大学や機関と提携しています。そのため福祉の学部であっても、海外へ研修に行き現地の福祉について学ぶことができます。私は大学２年次に海外福祉研修でカナダのバンクーバーとビクトリアを訪れ、そこで見学に行った高齢者施設で見た利用者さんの生き生きとした姿に衝撃を覚え、カナダの福祉に興味を持ちました。その後、大学院在学中にカナダへ留学し、多民族国家におけるソーシャルワーカーの仕事について学びました。また日韓Ｗ杯から10年後の２０１２年には、提携校である韓南大学（韓国）が来日しサッカー部と国際交流試合が行われました。２０１４年には我がサッカー部が訪韓し試合を行いました。選手たちにとって世界を見るいい機会となるので、これからも継続的に行われていくことを願っています。

最後に、私は今年６月から福祉総合学部所属の研究員として働き始めました。自分の福祉の研究をしつつ、学部の広報活動などをおこなっています。在学中にお世話になった先生方、職員の方々への感謝を胸に、少しでも恩返しできるよう、大学のため、日本の福祉のために頑張っていこうと思います。

心身ともに鍛えられ感謝の気持ち

鮫島（さめじま） 浩二（こうじ）

松山城南高校教諭・
自転車部監督

2005年3月　経営情報学部
卒業・硬式野球部で活躍

高校時代（新田高校）の練習は、思い出したくもないほど厳しかったです。ＪＩＵに進学したきっかけは、河上國男さん（観光学部軟式野球部監督）にお声掛け頂いたからです。大学時代の監督は原田勝美さんでした。原田監督も、非常に厳しい方でしたので、４年間、本当に苦しい練習でした。学内で授業を受講している以外の時間は、ほぼ、白球を追いかけ、走り回っていた記憶しかありません。

高校時代を上回るほど、厳しい監督さんで、主将として悩み、苦しみ、涙したことも多かったように思います。心身ともに、本当に鍛えられたと、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

教職の道を選び、９年間松山城南高校で勤めさせて頂いたあと、京都の学校に移りましたが、２年間でまた松山に戻りました。「創部する自転車部の監督をやってくれないか」と校長に打診され、監督を引き受けました。自転車部の指導に当たっては、今思い返しても、本当に可哀想だったかなと思うぐらい厳しくしました。一年間、きついこと、苦しいこと、時に理不尽なこと、生徒の嫌がることを、徹底して追い込んできました。生徒たちがそれを乗り越えてくれた結果が、今年の全国高校総体（インターハイ）での完全制覇につながったと思います。

「高校教育とは、小さな完成品を育てる教育ではなく、大きな未完成品を育てる教育」だと思っています。未完成品ながらも、将来、大きな完成品となるよう、生徒たちを育てて行くことが、教職としての私の務めだと思っております。

城西国際大学は、日本一の学校だと教え子たちには胸を張って伝えております。大学としての環境、先生方の温かさ・熱心さなど、本当に素晴らしい。そんな大学で勉強できている後輩たちは、本当に幸せだと思います。

過去に何があろうとも、今を精一杯生きていれば、人はそれを認め、どれだけ未来に夢を見ても、今という現実を必死で努力しなければ、未来はありません。「今あるのみ」だと思います。今が、必ず将来を創ります。

遠くからにはなりますが、後輩たちの活躍を、卒業生として、切に願っております。

将来は国連など国際機関で働くのが夢

山口（やまぐち） 萌（もえ）

青年海外協力隊員
2017年　国際人文学部
国際交流学科卒業

ＪＩＣＡ（国際協力機構）の青年海外協力隊員の一員として、この秋に南米パラグアイに赴任しました。２年間の予定です。首都のアスンシオンからバスで６時間もかかる小さな村で、ホームステイをしながら「青少年活動」を担当しています。村の小学校を回り、音楽、図工、体育を教えています。村の子供たちは、都会から離れた場所で生まれ、育ち、多くの人に接する機会が乏しく、コミュニケーション力が育っていない、ということで、情操教育を通して、それをアップさせるのが任務です。

大学２年の時にハワイ大学ヒロ校に交換留学生として10か月間、学びました。

そこには、パプアニューギニアなど大洋州から来た留学生が学んでいました。その学生たちは「国に帰ってから国のために捧げよう」という気持ちを持っていました。「経済的に豊かになりたい」と思ってばかりいた自分の価値観の低さに気付くとともに、同じ時間なのに幸せそうに、ゆったり過ごしている彼らをうらやましいと感じるようになりました。

それからは、留学までできた環境に感謝しながら、「国際協力」を学ぶようになりました。４年生なって、ベトナム研修に参加し、孤児院の子供らと接し、「わたしたちが手を差し伸べれば、経済事情で苦しむ子供らの人生も変わるのではないか」と思いました。先生の勧めもあり青年海外協力隊に興味を持ち、まず、現地に入り、経験を積んでから、「国際協力」についての研究をする、という意思を固めました。

「青少年活動」の分野があるパラグアイを希望赴任地に選び、青年海外協力隊の試験を受けました。体力も選考の重要基準ですが、ハワイ大学留学の時に、ホノルルマラソンを完走したこともあり、体力には自信がありました。今年２月中旬に、隊員候補生として「合格通知」をもらいました。そして７月からは、70日間、延べ２１０時間におよぶパラグアイの公用語であるスペイン語の研修があり、スペイン語をマスターしました。

将来は、青年海外協力隊での経験をステップに英国の大学院で学び、国連など国際機関で働くのが夢です。

一番の思い出は友人達と過ごした時間

桂澤（かつらざわ） 朗（あきら）

城西大学職員
2004年 経営情報学部
卒業

学生時代は、当初、公務員志望で試験勉強をしていましたが、姉妹大学の城西大学の職員の話があり、ダメ元でチャレンジしました。就職課で指導いただいたおかげで、試験なども上手く進みました。

現在まで学務課、薬学部事務など３部署を経験していますが、学務課は、学長直属の部署なので、いわゆる秘書課のような部分と、大学の各学部等の取りまとめが主な業務内容でした。多岐にわたる業務・刺激になる業務もあり、とても勉強になりました。

いまは、薬学部事務室での勤務です。学部事務室の経験が初めてなので、新人のような状態で日々勉強の毎日です。事務室には学生や先生方も多く訪れますので、交流しながら楽しく仕事をしていこうと思っています。

出身高校は新潟県の村上桜ケ丘高校です。地元から出たいという気持ちが強く、県外に出ることは決めていました。当時の第一志望校は違う大学で、英語を専門に勉強ができる学部でした。しかし、商業科だったので、商業の勉強が面白くなってきたこともあり、商業系と好きな英語の両方が勉強できるところを探していたときに、担任の先生から紹介され見学にいったところ、勉学内容や施設の充実さなどにひかれ、城西大学国際大学に決めました。

学生時代は、勉学と遊びを一生懸命やっていました。部活動はしていませんでしたが、ＪＩＵサッカーリーグが立ち上がり、友人達と一緒にチームを作り参加していました。グラウンドでよく練習をしたのを覚えています。

一番の思い出は友人達と過ごした時間です。グアムにダイビングのライセンスを取りに行ったり、毎日遅くまで遊んだり、中でも卒業旅行は一番の思い出です。

大学で過ごした時間は、私にとってかけがえのない時間です。大学生でしかできないことも多くあると思います。今を楽しく充実したものにすることはもちろんですが、今しかできないことを（勉学を含めて）一生懸命行い、将来の糧としてほしいと思います。

スポーツ界で
活躍する卒業生たち

JU ATHLETE アスリート

大城（おおしろ）優衣（ゆい）
2016年3月
経営情報学部卒業・
女子駅伝部で活躍
愛媛銀行勤務

人との繋がりや縁を大切に

沖縄市のコザ高校出身です。2年、3年生と都大路（全国高校駅伝）に男女ともに出場しました。2年生は2区で、3年生の時は1区を走りました。高校卒業してからも、沖縄を出てレベルの高い大学で陸上競技をしたいと思い、顧問の先生の繋がりで城西国際大学に入学しました。

大学での練習は朝6時15分、午後は15時から約2～3時間。ゴルフ場や「農大坂」を走り、大学近くの環境に恵まれ練習をすることができました。実業団に入れるタイムを持っていない私が愛媛銀行に入社したのも大学のコーチの繋がりです。そういう事もあり、人との繋がりや縁は大切にし、競技をしていこうと思っています。

愛媛銀行は、行員数が1415人を数え、支店数は103支店あります。9時から14時まで銀行事務で、練習は朝5時45分、午後は15時からやっています。去年は選手3人で駅伝メンバーが組めなかったのですが、今年は7人になり、駅伝の予選会に出場し、本戦出場に向けて練習を積んでいます。去年の創部と同時に主将になりました。駅伝部のOGである中村萌乃さんや阿部友香里さんら実業団のトップで走る先輩方は、ほんとにカッコよくて憧れの選手です。一緒の舞台で走りたいと思って頑張っています！

愛媛銀行の男子駅伝部の主将の甲岡昌吾さんは、城西大学出身（2011年卒業）で、姉妹校という繋がりもあり、よく話してくれます。城西出身者が同じ会社、競技をしていると心強い気持ちです。

大学を卒業して1年半になりますが、後輩のことは気になります。大学のホームページや試合の結果の頑張りを耳にすると「もっと頑張らないと」と刺激を貰いながら活躍を見ています。自分が主将になった時は口下手で何も出来なかったですが、それでもついて来てくれたので、後輩達に感謝しています。大塚正美先生も監督に復帰し、競技、生活の面でも良い指導を受けることが出来ると思います。私達が出来なかった「全日本」に絶対出場して欲しいです。久しぶりに城西国際大学のユニホームが仙台を走るのを沢山の方が期待していると思うので、ぜひ頑張ってほしいです！

愛媛から応援しています！

卒業生の加藤友里恵さんが、リオ五輪トライアスロンに出場

加藤友里恵さん（2009年 福祉総合学部卒業）が、昨年開催されたリオデジャネイロオリンピックのトライアスロン女子代表に出場した**＝写真**。

加藤さんは千葉・銚子西高で陸上競技を始め、JIUに在学中は、女子駅伝部に所属した。2005年の第23回全日本大学女子駅伝対校選手権大会では総合第3位に入賞するなど、中心選手として活躍した。卒業後は実業団を経て、トライアスロンの選手となった。トライアスロンは30代が世界のトップを争う競技。加藤さんは、次回の東京五輪も見据えている。

サッカー部―3人がJリーグなどへはばたく

今春、卒業した加藤潤也選手（経営情報学部）が、Jリーグディビジョン3（J3）のガイナーレ鳥取、に、2017年シーズンより加入した。加藤選手は米子北高校出身で、ポジションはフォワード。

ガイナーレ鳥取Webサイトで、加藤選手は「高校時代を過ごした第二の故郷である鳥取にプロサッカー選手として帰ってくることができて大変嬉しく思う。今まで支えてくださった方々への感謝を忘れず、ガイナーレ鳥取のJ2昇格に貢献できるよう頑張っていきたい」とコメントしている。

また、小栗和也選手（経営情報学部）がJFLの「ラインメール青森」に、2017年シーズンより加入した。小栗選手は北海道大谷室蘭高校出身で、ミッドフィールダー。

また廣瀬智行選手（経営情報学部）も、JFLの「東京武蔵野シティフットボールクラブ」に、入団した。廣瀬選手は北海道大谷室蘭高等学校出身で、ポジションはデフェンス。

なおJリーグには、2016年シーズンに「ジェフユナイテッド市原・千葉」に大野哲煥選手が加入している。

車いすマラソンの鈴木朋樹さん

今春、経営情報学部を卒業した鈴木朋樹さん**＝写真**は、車いすマラソンの日本のホープだ。一躍、注目される存在になったのは、2015年2月に開催された東京マラソンだ。当時2年生だった鈴木さんは銀メダルを獲得。初マラソンだったにもかかわらず、記録は1時間30分23秒。車いすマラソンは、42・195㌔を時速30㌔以上のスピードで駆け抜ける迫力あるレースだ。

同年12月に行われた「日産カップ」。この大会は、神奈川県横須賀市の追浜駅前をスタートし、日産自動車追浜工場内の自動車のテストコースとの間を3周する車いすマラソン大会。ハーフマラソンで4連覇中の本命選手を破り、3秒差をつけて47分0秒でゴールテープを切った。さらに昨年10月の大分国際車いすマラソンでは、2位となった。この大会にはリオデジャネイロ・パラリンピックの金メダリスト、スイスのマルセル・フグ（途中でリタイア）も参加し、注目を集めた。

25歳になる東京オリンピック・パラリンピックでの活躍が期待される。

学生とともに わたしも教えています

林家正蔵 特任教授

1978年4月、父・林家三平に入門。1980年、三平没後、林家こん平門下へ。2005年3月21日、九代目林家正蔵を襲名 。真打昇進は、史上最年少の24歳で、17人抜きという快挙でした。しかも、祖父七代目林家正蔵、父林家三平と親子三代の真打は史上初です。親しみやすい風貌と人柄で、「こぶ平」さん時代からテレビやラジオで活躍しています。

城西国際大学では、「古典芸能と現代」を担当しています。日本の伝統芸能の一つである落語と現代のつながりを学ぶ科目です。初めに学外授業にて実演を鑑賞、次いで「落語の歴史」「歌舞伎、能、狂言と落語」「古典落語と新作落語」「落語と現代社会」「古典の名人芸の解説」等のテーマで実演を交えて講義しています。最後に、受講者によるディスカッションでまとめます。正蔵先生はじめ講師陣と学生たちが一体になって展開される授業で、笑いが絶えません。

―― 2005年から本学で授業をなさっていますが、どのような狙いで、どんな授業をなさっていますか。

「まずは落語を知ってもらいたいですね。江戸時代から続く伝統的な芸能であるということと、そして、それにまつわる古典芸能がいろいろあることも分かってほしい。そうしたものの伝統的な美しさやおもしろさを目や耳で楽しむ、そういう醍醐味を知ってもらいたいと思っています。そこで、授業では私だけでなく、いろんな師匠に協力していただいています。実際に高座をつくり、落語は勿論、寄席の演芸を通して日本人の感性を知ってもらいたい。また、噺も『地噺』、『滑稽噺』、『人情噺』といったタイプの異なる落語や、古典だけでなく新作落語も実演しています」

意思疎通の仕方や生きるヒントを落語から学んで

―― これまで落語をみたことのない学生も多いのですが、学生の反応はいかがでしょうか。

「そうですね。古典落語でもちゃんとポイントをはずさず笑っていますし、新作落語では大笑いです。みたことがなくても、みれば面白い、そのことが分かってもらえたと感じています。私としては、せっかくの機会なので、テレビのなかの落語家ではなく、実際の落語家が何を考えているのか、どう思って落語を演じているのか、をみせたいですね。そこから意志疎通の仕方や生きるヒントみたいなものも学んでもらいたい、とも考えています。今年はレポートの課題を「『落語』と『コミュニケーション』そして『現代』と『古典』」について考える、としました。落語は古い、自分には関係ない、ではなくて、「コミュニケーション」という視点からとらえたり、現代に通じる部分があるという目で見直したり、そうしたことをしてほしいですね」

―― 今後に向けてひと言お願いいたします。

「年々、落語の知識を持つ、意識の高い学生が増えてきているので、やっていて本当におもしろいですよ。これからが、楽しみです」

Profile

1978年	高校入学と同時に林家こぶ平として落語協会に所属
81年	東京都立竹台高等学校卒業
87年	真打昇進
2003年3月	春風亭小朝、笑福亭鶴瓶らと「六人の会」結成
05年3月21日	九代目・林家正蔵を襲名
05年～	城西国際大学人文学部（その後、国際人文学部国際文化学科に改組）特任教授
14年～	落語協会副会長
15年	第70回文化庁芸術祭優秀賞受賞

城西国際大学の国際性・多様さは東金の宝物

――東金市は、市をあげて城西国際大学を支援していただいていると聞いておりますが、市にとって本学はどんな存在なのでしょうか。

「千葉県の東部地域で唯一の総合大学でさまざまな学部があります。このような教育的施設があるのは、地域にとって意味あることです。市民に開かれた図書館、博物館のような存在です。人口6万人の市に5000人もの学生や教職員がおります。多くの若い人が地域を活性化し、地域経済・産業にも刺激を与えています」

――城西国際大学の地域への貢献と地域（自治体）からの協力について、看護学部の開設が挙げられます。看護学部の学生が、東金九十九里地域医療センター（東金市）から奨学金をいただいて多数の卒業生が、東千葉メディカルセンターに奉職しております。

インタビュー 志賀直温（しがなおはる） 東金市長

「千葉県は人口当たりの看護師の数が全国で下から3番目に低い県です。その中でも東金市は、県の平均数をさらに下回っています。昨年、城西国際大学の看護学部の卒業生20人が東千葉メディカルセンターに奉職しました。今年は17人が入りました。社会が高齢化する中、多くの看護師が必要です。城西国際大学で学んだ看護師は勤勉で高い技術を持っていると思います」

――本学は「地域に密着した国際大学」を目指してきました。東金市とは、最近でも、姉妹都市のフランス、リュエイユ・マルメゾン市の東金訪問、ミャンマーから招いた空手選手が、城西国際大学で行われた「日本・ミャンマー交流空手道大会」に参加しています。

「城西国際大学の特徴は、その国際的な多様性でしょう。東金市もアジアをはじめ多くの国々の人々を歓迎します。このような国際性、多様さがあることは、東金の宝物です。貴学との協力を通して、さらに国際的な交流を深めていきたい、と考えています」

――東金市役所で、業務に励んでいる本学の卒業生も目立ちます。東金市と本学との関係を物語るものだと思います。大学に対してメッセージがありましたらお願いします。

「東金市役所では、城西国際大学の学生のインターンシップも受け入れております。研修生はさまざまな地域のイベントなどに参加してくれています。

お祝いしたいことがあります。高円宮絢子女王殿下が、福祉総合学部の研究生になられたことです。大学時代は勉学・研究に励みながらサッカー部のマネージャーもなされておられました。研究生として大学に来られたことは、素晴らしい、と思います」

東金市・城西国際大学（産学官）懇談会

東金市・城西国際大学（産学官）懇談会が10月4日、東金キャンパスの会議室で開かれた＝**写真**。大学、東金市、東金商工会議所は、これまでも相互の連携を図り、地域の活性化に取り組んできた。その連携をさらに深めるため、同懇談会を開催することになった。

志賀直温・東金市長、清宮利男・東金市議会議長、小川秀二・東金商工会議所会頭や各事務局の担当者らが出席した。

まず、志賀市長が「平素から城西国際大学にはお世話になっています。市と大学、商工会議所が連携して、産業振興や人材育成に取り組み、地域を活性化させたいと思います。本格的な人口減少社会になりますが、連携して、それに歯止めをかける工夫をしていきたい。大学と地域は運命共同体です。互いに情報を共有しながら柔軟な発想で進めていきたい」と述べた。

続いて杉林堅次学長が「大学は新体制になりました。9月11日に新理事長に大正製薬の上原明さんが就任しました。わたしも4月から城西国際大学の学長となりました。学生に寄り添い、学生を中心にした教育をさらに推進させていきたいと思います」と「新ＪＩＵ」について説明しながら「大学がこれまで東金市、商工会議所から協力していただいたことに感謝いたします。今後は、大学は、ますます地域との連携が必要となってきます。地域との連携がなければ生きていけなくなるでしょう。地域の方々との『協働』を進め、共に創造する『共創』の心でやっていきたい」と述べた。

また、清宮利男・東金市議会議長は「東金市の高齢化は進み、65歳以上が28％を占めています。この状況を踏まえ、大学と連携して市を活性化させたい」。小川秀二・東金商工会議所会頭は「１３００の事業所が加盟する経済団体で、城西国際大学が最大の会員です。大学とのつながりでプロジェクトを考えていきたい」とそれぞれ述べた。

このあと、懇談会に移り、それぞれがもつニーズや活用できる経営資源等について情報交換を行い、互いの取り組みを活かしながら一体となって連携・協働し、地方創生の実現に向けたまちづくり、地域における産業振興、人材の育成など、東金の発展、魅力ある地域づくりの実現に資するための提案などが活発に行われた。

地域とともに

道の駅プロジェクト
「ゆったりした時間・空間」をテーマに

観光学部では、2015年から「道の駅」をテーマにしたプロジェクトをスタートさせた。「道の駅」は、国土交通省により登録された、休憩施設と地域振興施設が一体となった施設。関係団体と協力して、「道の駅」を大学における実践教育の場とし、地域振興拠点として発展させるための具体的方策を学生参画のもとに研究・実践する。それを通じて、観光まちづくり人材の育成を図ることを目的としている。

「道の駅プロジェクト」では、千葉国道事務所・「道の駅」鴨川オーシャンパーク・観光学部の3者が連携して実施する「鴨川道の駅プロジェクト」と、「成田地域道の駅プロジェクト」の2つを展開している。

「鴨川道の駅プロジェクト」を紹介すると、3つの調査研究事業がある。鴨川市や周辺地域における観光魅力の情報発信▼道の駅「鴨川オーシャンパーク」独自の商品・料理等の開発▼道の駅「鴨川オーシャンパーク」訪問客や地域のニーズの把握だ。

2017年3月には、「第2回 道の駅と大学連携成果発表交流会」に参加した。観光学部の学生は、鴨川オーシャンパークに訪れたお客様の滞在時間を伸ばすことを目的に、「ゆったりとした時間を過ごすための空間を演出すること」をテーマとして取り上げ、その成果を発表した。

親子で楽しむ「パソコン解体」体験
3歳の子どもから社会人まで31名が参加

環境社会学部は、4月22日、東金キャンパス近くの「道の駅」の情報コーナーで、子どもたちを対象にした「パソコン解体体験」を実施した＝**写真**。環境社会学部の社会人学生2名、学生1名、卒業生1名の4名が、子どもたちの解体の指導と手伝いを協力してくれた。

生活の一部になっているパソコンや携帯電話、家電製品、自動車などには、地下資源の希少金属が材料として使われている。それらの機器には大量の鉱物資源が眠っており、都市の中にある鉱山という意味で「都市鉱山」と称している。31種類の希少金属（レアメタル）のうち、パソコンには20種類が使われている。不要になったからといって廃棄すれば、廃棄した分だけレアメタルは減る。日本ではレアメタルは採れないので、輸入に頼っているのが実情だ。

参加した子どもたちは、3歳から小学校2年生まで。まずは解体の面白さを感じてもらうことが大切だと考えてのイベントだ。成長してから資源のことを知った時に初めて、小さい時の体験を思い出してもらえると思う。今回は、子ども10名、親が12名、大人9名が参加した。これからも、この体験教室を実施する予定だ。

教育提携校と
4グループに分かれ授業体験

4月26日、教育提携校である、千葉県立成東高等学校1年生約280名が東金キャンパスで学習法ガイダンスを開催した。冒頭、光本篤史副学長が激励の挨拶をおこなった。

500名収容の水田記念ホールで各教科に関する全体ガイダンスの後、4グループに分かれ、看護学部、理学療法学科、国際人文学部、経営情報学部に関する本学教員による授業を体験した＝**写真**。

成東高等学校とは、教育提携協定の一環として、今年度より高校3年生を対象に本学を会場とした高大連携講座「多文化共生講座」を開講し、大学教員の授業を成東高校生が受講する。

東金市役所で
インターンシップ――自前企画をプレゼン

8月3日から8日まで、経営情報学部公共マネジメントコースの学生3名が東金市役所インターンシップに参加した。配属先である企画制作部企画課において、東金市公式YouTubeチャンネル内の「とうがね News」の制作に参加させていただき、道の駅「みのりの郷」の紹介を行った。学生達は各自事前に企画を考え、インターンシップ内でプレゼンテーションし、職員とのディスカッションを経て、台本作りや演出を行った。

このほかにも、地元公共施設でのイベントの手伝い等5日間のインターンシップは充実したものとなった。

商工会議所と
2020年に向けてさらなる観光振興

観光学部は、木更津・君津・館山の3商工会議所との連携事業を実施、南房総地域に訪れた観光者の観光動向や消費動向を把握するための調査を行っている。2020年のオリンピック・パラリンピックに向けたさらなる観光振興を目指し、新たな観光ルートの開発や地域資源を活用した商品開発に資する調査を実施していく。

9月12日、調査1回目として、木更津市、君津市、館山市内観光資源の実地調査を行った。最近、テレビやインターネットでも話題のパワースポット「濃溝の滝（君津市）」＝**写真**＝や昔懐かしい昭和の街並みが国道沿いに残る「久留里（君津市）」、独特な栽培方法で人気のブルーベリー農園「エザワフルーツランド（木更津市）」、創業100年の老舗「宝屋（木更津市）」、夕焼けの景色で人気上昇中の「原岡桟橋」、館山の観光拠点でもある「渚の駅たてやま」や「たてやま夕日桟橋」などを視察した。

介護実習報告会
学生・指導者・教員が一体となり大きな成果

7月13日、東金キャンパス水田記念ホールで福祉総合学部介護福祉コース4年生による「2017年度 介護実習報告会」を開催した＝**写真**。

この実習報告会は、介護実習を終了した4年生の発表を中心に、毎年行われている。12施設19名の実習指導者をはじめ、介護福祉コース1～3年生も出席し、約100名の参加者があった。全体会の後、3グループに分かれて報告会が行われた。参加された実習指導者のみなさまからは多くの質問や講評をいただいた。学生・実習指導者・教員が一体となって考える機会をもつことができることは、この実習報告会の大きな成果となった。

出席くださった施設は、以下の通りです。（順不同・敬称略）

■**特別養護老人ホーム**：マイホーム習志野、中野園、実恵園、ゆりの木苑、いずみ苑、ローゼンヴィラはま野

■**介護老人保健施設**：老人ケアセンター浅井、シルバーケアセンター、ケアセンター習志野、ミス・ヘンテ記念ケアセンター

■**障害者支援施設**：コスモ・ヴィレッジ、ローゼンヴィラ藤原

九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー2017
「こどもを育てるまちづくり」をテーマに

8月最後の週末、恒例の九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー2017が、医学、薬学、看護、福祉で学ぶ大学生を中心とした32名の受講生参加によりＪＩＵなどで開催された。今年のテーマは「こどもを育てるまちづくり」。

このセミナーの特徴でもあるフィールドワークでは、「医療・保健フィールド」、「子育て支援・行政フィールド」、「地域福祉フィールド」、「教育支援フィールド」にわかれ、この地域で行われている子育て支援に関連する活動について学んだ。それぞれの施設で従事している方々のお話を伺い、それらの一部を体験することは、受講生たちにとって忘れがたい経験となった。

セミナー2日目は、東邦大学看護学部の福島氏よりソーシャルキャピタルという概念を中心とした「子産み、子育てから始まる健康なまちづくり」についてご講演いただいた。セミナーのまとめとして、この地域が抱える問題を抽出し、それらの課題を解決する方法と共に自ら考える「こどもを育てるまちづくり」を提案した。

「月間アットホーム ヒーロー賞」受賞（8月）

写真提供・読売巨人軍

宇佐見真吾（うさみしんご）さん・読売ジャイアンツ所属

2016年環境社会学部卒業

『巨人の星』になってほしい」（硬式野球部・佐藤監督）

千葉県の柏市立柏高校では甲子園に出場することはなかったが、城西国際大学に進学後、捕手として1年春からリーグ戦に出場。1年秋と2年春にベストナインを受賞。4年は主将に。2015年夏季ユニバーシアードの日本代表に選出され、金メダル獲得に貢献した。同年秋、ドラフト会議で読売ジャイアンツから4位指名を受け、入団した。

頭角を現したのは、今年の夏。8月8日の阪神タイガース戦から一軍に昇格した。その日に代打として公式戦初出場を果たし、初打席初安打を記録した。8月18日の横浜DeNAベイスターズ戦では延長10回裏にプロ入り初本塁打をサヨナラ本塁打で達成した。このプレーがファンの目に留まり、8月度の「月間アットホームヒーロー賞」を受賞した。

そして8月25日の阪神タイガース戦では「8番・捕手」として一軍で初の先発メンバーで起用された。5回に同点となる2点本塁打を放った**写真**。また、9月5日の中日ドラゴンズでは、2点ビハインドの9回裏2死一塁で打席に立ち、同点本塁打を放つ活躍ぶりだった。

8月18日の初本塁打を放ったことに、各新聞は

「城西国際大出身で、8日に1軍初昇格を果たしたばかり。プロではわずか2安打だが『打てる捕手』との評判通りの持ち味を発揮した。途中出場で3度目の打席となった十回2死二塁。高めに来たスライダーを振り抜いた。打球が右翼席に軽々と到達してもスピードを落とさずにダイヤモンドを走り抜け、チームメイトの手荒い祝福を受けた。両チーム計27安打、16得点の乱打戦で、巨人は宇佐見ら、途中出場選手の活躍が光った。七回はともに代打で送られた宇佐見が四球、橋本到が二塁打で、陽岱鋼の同点3ランを呼び込む。十回も2死から代打・中井が左翼線二塁打で宇佐見につなげた。控え選手の活躍に高橋監督も目を細める」

といった内容の記事・解説を掲載した。

城西国際大学で、宇佐見選手を指導した硬式野球部の佐藤清監督は「『巨人の星』になってほしい」とエールを送る。

同窓会から

城西国際大学の同窓会は、第1期の卒業生を送り出した1996年に創設され、同窓生の数は、今や18000人に達している。在学生への支援、キャンパスの整備など、母校のサポートはもとより、ホームカミングデーを開催するなど同窓生と大学とのより強い結びつきを目指している。

近年は、支部設立を目的に各地区で同窓会を開催したり、特別に会員が集まれる場所を提供したりするなどして、会員相互の親睦をはかる取り組みも盛んに行われている。

同窓会事務局は、東金キャンパスの本部棟4階にある。

□問い合わせ
☎0475-53-2141
（月～金 9時～17時　※ただし火曜休）

城西国際大学 同窓会・青柳吉彦会長　ごあいさつ

城西国際大学は、国際大学らしく海外との結びつきも強く、勉学はもちろんのことすばらしい設備のもと、野球部、サッカー部などをはじめとする運動部や、恵まれた環境を活かした文化部などの課外活動が盛んに行われています。

同窓会は18000人を超える同窓生の力を結集して母校の発展・名声高揚のお手伝いをしております。さらに同窓生の絆を深めるため、各地区の同窓会の活性化を目指します。

奨学金制度一覧

名称	種別	内容	対象	対象年次
水田奨学生制度	給付	学校法人城西大学創立者水田三喜男先生の育成思想を実現するために設けられている奨学制度です。建学の精神に則り、成績優秀な学生の顕彰とさらなる育成を目的としています。各学部・学科から学年ごとに１名が選ばれます。また、水田奨学生に準ずる者として、学習奨励賞並びに成績優秀者を選考して表彰します。	成績・人物が優秀な学生。	全学年
水田国際奨学金制度	給付	国際的な勉学を奨励することを目的として、JEAP 留学制度による留学の支援として、選考により、上限50万円を授与します。	JEAP 留学制度を利用して海外へ留学する学生。	２年次以降
鴨川市人材育成支援制度〈授業料減免〉（観光学部対象）	給付	鴨川市に居住し、観光学部に入学する場合、４年間の授業料30% を減免します。（総額924,000 円）	鴨川市に居住し、観光学部に入学した者。	全学年
南房総地域人材育成支援制度〈授業料減免〉（観光学部対象）	給付	南房総地域※に居住し、経済的に修学困難と認められる者が観光学部に入学する場合、４年間の授業料30% を減免します。（総額924,000 円） ※南房総地域は、南房総市、館山市、鋸南町、富津市、君津市、木更津市、袖ヶ浦市、大多喜町、勝浦市、御宿町、いすみ市となります。	南房総地域に居住し、観光学部に入学した者。かつ、家計支持者の前年度年収が 500 万円以下、または兄姉が大学に在学中の第２子以下の場合は年収が 800 万円以下の場合に申請資格を有します。	全学年
海外留学奨励奨学生	給付	本学の建学の精神である国際社会で貢献できる人材育成の実現のために、学業優秀であり、かつ留学における学習成果が期待できる学生に対し、海外研修に参加する際の費用を給付します。	国際人文学部国際文化学科（中国言語文化コース、韓国言語文化コース）・国際交流学科に在籍し、人物・学業が備わり、海外研修に参加する者。	１年次のみ
社会人特別奨学生制度	給付	高い勉学意欲、並びに地域社会に貢献する意識をもつ社会人学生を対象にした奨学制度です。「４年での卒業を目指す場合」に授業料及び施設設備費を 50%減免、「５年以上８年以内で卒業を目指す場合」には申請単位数に応じた額を授業料とする単位制学費を適用し、施設設備費も 50%減免します。	看護学部・薬学部・福祉総合学部理学療法学科をのぞく全学科に在籍する社会人学生。	全学年
父母後援会会員の死亡による授業料の奨学金	貸与	学費支弁者たる第１保証人の会員が死亡した時は、通常の卒業課程の範囲を限度に、授業料を無利息で貸与する。	希望する者。	全学年

大学グッズ Goods

「JIUグッズ」は、こんなにたくさんあります（写真）。記念にどうぞ。大学祭などの行事に合わせて「JIUグッズ」の販売所を設けています。問い合わせは、総務課（0475−55−8800）へ。

※「ブルガリアンウォーター」「ローズクリーム」「リップバーム」の3点は 杉林学長の研究開発商品です（「リップバーム」は文房具の筆ペン容器からヒントを得、化粧品容器を作りました）

父母後援会から

父母後援会・大矢 務会長 ごあいさつ

ＪＩＵの父母後援会は、大学と保護者との相互理解を深めるため、活動しています。各地で父母地区懇談会も開いています。大学から遠い地域に住む保護者は、自分の子供たちが通うキャンパスで教職員と接触する機会を持つことはなかなか難しいのが実情です。地区懇談会は、いわば「出張キャンパス」です。

ＪＩＵは学生第一主義に考え、教育基盤がしっかりしており、安心して学べる大学です。スポーツ、文化活動も盛んで、体育館、高円宮殿下記念スポーツパークなど千葉県内屈指のスポーツ施設も整っております。

父母後援会は、子どもたちがお世話になっている大学の発展を願い、これからも大学と一体となって、さらに良きＪＩＵにしていこう、と努めております。父母と大学・教職員を結ぶ架け橋役を目指しています。

地区懇談会

ＪＩＵの父母後援会は、大学と保護者との相互理解を深めるため、全国11の地域で父母地区懇談会を開いている。今年度は、6月の神奈川を皮切りに茨城、山梨、埼玉、四国、静岡、東北、新潟、群馬、栃木で開催し、12月2日に東金キャンパスで千葉（全国）懇談会が開かれる。大学から遠い地域に住む保護者は、自分の子供たちが通うキャンパスで教職員と接触する機会を持つことはなかなか難しい。地区懇談会は、いわば「出張キャンパス」だ。

松山市では、7月29日に「四国（松山）地区懇談会」が行われた。

成績面談は大学から遠い松山ということもあり、一人40分程時間をとった。また、入試相談コーナーでは、地元の13高校から、計19人の高校生が訪れ、ミニオープンキャンパス形式として説明会も行った。

また、9月2日には、山形市内で東北地区父母懇談会を開催した。

全体会で挨拶する杉林堅次学長

JUでは

姉妹校である城西大学（JU）ので話題、活躍の選手、受賞などについて紹介します。

鶴ヶ島市が東京五輪のミャンマーのホストタウンに

城西大学が連携協力

２０２０年の東京五輪・パラリンピックで、埼玉県鶴ヶ島市がミャンマーの「ホストタウン」として登録された。７月11日、藤縄善朗市長やトゥレイン・タン・ズィン駐日大使、施設提供などで連携協力しているＪＵの白幡晶学長らが記者会見して明らかにした。今後、ミャンマー選手がＪＵの総合グラウンドなどで強化合宿や大会直前合宿を行うほか、市民との交流イベントなどを通じて友好を深める。

ホストタウンは、大会参加国・地域と登録市町村の交流を支援する国の事業で、事前合宿や交流事業などを行う際に国から費用補助を受けることができる。

会見で、白幡学長は「市の活動に学生や教職員も参加させていただき、ミャンマーと日本、ミャンマーと大学との交流促進に貢献したい。学生が世界に目を向ける機会にしたい」と述べた。また、ズィン大使は「スポーツ施設を提供していただき感謝しています。施設のレベルは高く、選手たちに大いに役立ちます」と語った。

９月19日には、キックオフイベントが市役所ロビーで開かれました。お昼休みを利用、市民や職員約１００人が集まった。藤縄市長の挨拶に続き、市のミャンマー交流大使を務めるＪＵのティティレイ客員教授が歴史や文化、スポーツなどを通してミャンマーを紹介。現代政策学部で学んでいるミャンマーからの留学生、タン・トウダー・ウィンさん＝写真㊨＝とウィン・スェー・ズィン＝同㊧＝さんが、水かけ祭りで踊るという民俗舞踊を披露してイベントに花を添えた。

世界最高タイ記録・日本最高記録を樹立

陸上競技の渡部佳朗選手

10月1日に行われた「日本記録挑戦会 兼 住友電工杯」（兵庫県伊丹市）の男子２００ハードル※において、城西大学陸上競技部の渡部佳朗選手（経営学部３年）が22秒55で優勝し、世界最高タイ記録、日本最高記録を樹立した。

２００ハードルは主要競技会で定例的に実施されているが、種目で、世界記録・日本記録の公認対象外種目だが、渡部選手は１９９５年にイタリアの Laurent Ottoz が記録した22秒55に並んだ。

※２００ハードルは、10台のハードルを跳び越えながら２００を走る。現在はオリンピックや世界選手権で実施されていないが、１９００年パリオリンピックと１９０４年セントルイスオリンピックでは実施種目だった。

奈良沢由美氏が学士院賞を受賞

城西大学現代政策学部の奈良沢由美准教授（現教授）＝写真＝が、日本学士院賞を受賞し、その授賞式が６月に東京・上野の日本学士院で行われた。

日本学士院賞は、学術上特に優れた論文、著書その他の研究業績に対して贈られている。授賞式は明治時代から毎年行われ、今年で１０７回を迎えた。

奈良沢さんは１９８９年、東京大学文学部を卒業。１９９２年、東京大学人文科学研究科修士課程修了。さらに２００８年、フランスのエクス＝マルセイユ大学の人文科学研究科博士課程を修了した。東京大学助手などを経て、２０１６年５月から８月まで城西大学現代政策学部客員教授、同８月から准教授、17年４月に教授に。専門分野は美術史、考古学で、今回の受賞は、フランス南部の教会祭壇の類型を体系化したことが評価された。

奈良澤さんの研究対象となったのは、「南ガリア」と称された地中海沿岸のプロヴァンスなど３地方にまたがる地域で、教会祭壇は４５４点にのぼる。奈良澤准教授は、約２００か所について現地に赴き、形態、素材、規格、装飾、意匠について詳細な調査を行った。その成果について「祭壇はキリスト教の典礼に欠かせないものですが、美術の面では地味な対象であり、これまで研究が手薄だった。奈良澤氏の研究は、失われていく文化遺産を記録する国際的な取り組みとしても重要である」と評価を受けている。

10月14日には、受賞特別記念講演「南フランスのキリスト教祭壇――地域文化財の記録と保存」が坂戸キャンパスで開催された。

号外

２年ぶりに箱根シード権奪取
14回目の本戦出場決める――男子駅伝部

第94回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）の予選会は、10月14日、東京都立川市で行われ、姉妹校の城西大学男子駅伝部は、10時間8分50秒で総合8位となり、2年ぶり14回目の本戦への出場を決めた。シード権奪取と過去最高の5位入賞を掲げて箱根路に臨む。

ＪＩＵのみなさんも応援よろしくお願いします！

著者に会いに行く

日露戦争・第一次大戦時、各国指導者は戦争をどのように始め、どのように終わらせたか

飯倉 章 国際人文学部教授

2018年は、第一次世界大戦が終結してから100年目に当たる。飯倉 章・国際人文学部教授＝**写真**＝はいま、それに合わせて『1918年、ドイツ軍はなぜ敗れたか』（仮題）の出版準備を進めている。昨年、『第一次世界大戦史』（中公新書）を出版し、新聞・雑誌の書評欄をにぎわせた。大戦当時の新聞や雑誌に掲載された風刺画や肖像画を豊富に盛り込み「諷刺風とともに見る指導者たち」との副題が付けられた。

これらの著書の伏線・下地になったのは「黄禍（イエロー・ペリル）」をめぐる欧米諸国の日本観の研究である。「黄禍論」は、日清戦争末期の1895年ごろから欧州で唱えられた黄色人種警戒論のことだ。日清戦争における日本の勝利は、欧州の白人の間に黄色人種に対する警戒を強めた。特にドイツ皇帝のヴィルヘルム2世は、「黄禍」に対して、欧州は一致して対抗すべきであると指摘。ヴィルヘルム2世は、「黄禍の図」と呼ばれるようになる寓意画「ヨーロッパの諸国民よ、汝らの信仰と祖国の防衛に加われ！」を世界に広めた。日清戦争に勝利した日本に対して、露・独・仏が自らの三国干渉を正当化するために浴びせた人種差別政策だった。「黄禍論」は、続く日露戦争の日本勝利で欧米全体に広まった、といわれる。

「黄禍論」に関連して、飯倉教授は、すでに『イエロー・ペリルの神話――帝国日本と「黄禍」の逆説』（彩流社、2004年）▼『日露戦争諷刺画大全』上・下巻（芙蓉書房出版、2010年）▼『黄禍論と日本人――欧米は何を嘲笑し、恐れたのか』（中央公論新社、2013年）を発刊している。

飯倉教授は「国際大学の大学院国際関係学研究科の院生だった時に、日露戦争研究の一環として当時の英米独仏の新聞・雑誌などを読み漁りました。日本観が良くわかりました。独露仏が『黄禍論』を唱えたのに対して、英米の雑誌は多少の例外があったにしろ、それに反論していた」という。

その「黄禍論」を主唱していたヴィルヘルム2世のドイツ帝国は、第一次世界大戦で英仏露、そして日米とも戦って敗れ、ヴィルヘルム2世も退位に追い込まれた。

日露戦争から第一次世界大戦まで。「黄禍論」に見られるように各国の指導者が他国をどのように見て、戦争を始め、終わらせたのか、当時の社会風潮はどうだったのか――飯倉教授の著作は、そのような点を生き生きと伝えている。次作『1918年、ドイツ軍はなぜ敗れたか』が待たれる。

教員の本 紹介

教員が出版した本は水田図書館に置かれ、貸出されている

2017年度教員出版図書

書名	著者	出版社	出版年
情報通信社会における企業経営　第2版　上	久保田正道（共著）	日科技連出版社	2017.3
情報通信社会における企業経営　第2版　下	久保田正道（共著）	日科技連出版社	2017.3
医薬品開発入門　第2版	児玉庸夫	じほう	2017.3
日米の衝突：ペリーから真珠湾、そして戦後	土田 宏（監訳）	彩流社	2017.4
福祉文化の協奏	増子勝義	北樹出版	2017.4
薬剤師・管理栄養士のための今日からはじめる薬局栄養指導	杉林堅次（共著）	日経メディカル開発	2017.8

告知板

【今年度の主要行事】

11月４日（土）・５日（日）	第26回大学祭「JIUフェスティバル」 テーマ:「輪 ～Make everlasting connectionskara～」
11月18日（土）	父母後援会・新潟地区懇談会
12月２日（土）	父母後援会・千葉全国地区懇談会（東金キャンパス）
	ライトフェスティバル
12月25日（月）	授業終了
１月９日（火）	授業再開
３月15日（木）	学位記授与式・卒業式

特待生入試を実施！――全学部で授業料全額または半額免除

一般入学試験A日程（2018年1月28日（日））において、全学部を対象にした特待生入試を実施する。特待生に選ばれると、授業料が全額または半額免除となる。対象者は全体で59名。

特待生入試は、本学ならびに学部・学科のアドミッション・ポリシーを体現する意欲を有し、一般入学試験で成績上位合格者に対して学費免除をする特待生制度。

薬学部では6年間授業料を全額または半額免除、看護学部と福祉総合学部理学療法学科では4年間授業料を全額または半額免除、そのほかの学部・学科では初年度の授業料を全額または半額免除となっている。特待生入試の募集定員は下記の通り。

【募集定員】

■看護学部看護学科
4年間授業料全額免除（S特待生）……募集定員5名
4年間授業料半額免除（A特待生）……募集定員5名

■薬学部医療薬学科
6年間授業料全額免除（S特待生）……募集定員5名
6年間授業料半額免除（A特待生）……募集定員8名

■福祉総合学部理学療法学科
4年間授業料全額免除（S特待生）……募集定員4名
4年間授業料半額免除（A特待生）……募集定員4名

■メディア学部メディア情報学科（映像芸術コース）東京紀尾井町キャンパス
初年度授業料全額免除（S特待生）……募集定員4名
初年度授業料半額免除（A特待生）……募集定員4名

■福祉総合学部福祉総合学科／環境社会学部環境社会学科／経営情報学部総合経営学科／メディア学部メディア情報学科（クロスメディアコース）千葉東金キャンパス
初年度授業料全額免除（S特待生）……募集定員4名
初年度授業料半額免除（A特待生）……募集定員4名

■国際人文学部国際文化学科／国際人文学部国際交流学科／観光学部ウェルネスツーリズム学科の7学科合計
初年度授業料全額免除（S特待生）……募集定員10名
初年度授業料半額免除（A特待生）……募集定員10名

選考日当日にエントリーすることで特待生入試の選考対象となる。なお、すでにAO方式入試や推薦入学で入学予定の方や、今後12月までの入学試験を受験予定の方についても、特待生入試を無料でエントリーできる。そのほかの注意事項は左記の通り。

◆看護学部の「高得点2科目入試」は、合否判定は「高得点の2科目」で判定し、特待生の選抜は「3科目」の合計で選抜。

◆選考科目に面接を課している場合、特待生の選抜には面接の評価は含まない。

◆S特待生：3科目合計の得点率が80％以上の成績上位者で募集定員枠内
A特待生：3科目合計の得点率が70％以上の成績上位者で募集定員枠内

◆合格は「特待生合格」と通常の「合格」の2種。

◆A特待生の授業料半額は、春学期分の授業料を免除。

◆看護学部看護学科／薬学部医療薬学科／福祉総合学部理学療法学科の特待生が、在籍中に「留年」「休学」「懲戒処分」「学生の本分に著しく反する行為」があった場合には、特待生の資格を取り消す場合がある。

【問い合わせ先】
城西国際大学　入試・広報センター
☎0475-55-8855

【編集後記】

城西国際大学は、今年、創立25周年を迎えた。地域に寄り添う国際的な総合大学として四半世紀の歴史を刻んできた。「そのJIUにふさわしい広報誌を、他大学に負けない充実した内容に」という声を受け、多くの方々の助力のもと『学ぶ』を発刊することになった。

学校法人城西大学の創立者の水田三喜男先生は、建学の理念として「学問による人間形成」を掲げた。表紙の「学ぶ」の字は、千葉県在住の著名な書道家の辻元大雲さんにお願いした。この建学の理念に通底するものである。

本学は、東金、安房鴨川と東京・紀尾井町にキャンパスを持ち、約6450人が学ぶ。ほとんどが、20歳代の若者だ。どんな大企業や大組織と比べても、大学ほど若いエネルギーが満ちている場所はない。そこに教職員、同窓生、父母、地域の方々の熟練のエネルギーも加わり、「知の世界」を形成している――それが大学のキャンパスだろう。『学ぶ』は、そこに集まり、散じた人々の「姿」、「動き」を切り取り、編集・発刊したものである。（発行・総務課）

発　行：2017年11月
編　集：学校法人城西大学　広報センター
発行者：城西国際大学　総務課
〒283-8555
千葉県東金市求名1番地
TEL：0475-55-8800
HP http://www.jiu.ac.jp/